

【素案】

政策・施策評価(試行)
外部評価報告書

〔資料編〕

静岡市行財政改革推進審議会

【 目 次 】

1	戦略Ⅰ－1	未来をひらく子どもプロジェクト	
	①	外部評価の結果〔外部評価シート〕	1
	②	内部評価の結果〔内部評価結果一覧〕	13
2	戦略Ⅱ－2	シティプロモーション推進プロジェクト	
	①	外部評価の結果〔外部評価シート〕	17
	②	内部評価の結果〔内部評価結果一覧〕	33
3	戦略Ⅲ－1	活力と交流のネットワークシティプロジェクト	
	①	外部評価の結果〔外部評価シート〕	39
	②	内部評価の結果〔内部評価結果一覧〕	51
4	戦略Ⅲ－3	魅力あふれる中山間地域活性化プロジェクト	
	①	外部評価の結果〔外部評価シート〕	53
	②	内部評価の結果〔内部評価結果一覧〕	67

政策名 1-1 未来を築く元気な子どもをみなで支え、大切にすまのまちの実現

代表指標	静岡市は安心して子育てできるまちだと思ふ市民の割合 (H21) 57%→(H26) 70%
------	--

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>「子どもをみなで支え、大切にすまのまち」は、すなわち、安心して子育てできるまちであることから、適切な指標である。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>内部評価のとおり、「未来を築く元気な子どもをみなで支え、大切にすまのまちの実現」を目的とする施策の指標としては適切と考える。</p> <p>ただ、指標はアンケートの結果によるものであるが、年齢や地域などによって回答は大きく違うと考えられることから、全体の結果だけを見るのではなく、世代別とするなど、後の分析に活用できるものを設定する必要がある。</p> <p>また、指標を達成することが目的ではなく、政策の実現が目的であるため、アンケート結果の数値だけにとらわれずに、取組全体を見て政策の達成を判断することも必要と考える。</p>

2 「政策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>安心して子育てできるまちの実現には、市民の関心が特に高い待機児童問題の解消が不可欠である。</p> <p>【原因】</p> <p>市民ニーズの拡大や多様化に施設整備等の対応が追いついていない。</p>	<p>評価結果：妥当ではない</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>「安心して子育てができるまちづくり」と「地域での子育てと子ども自らの子育てを支援するまちづくり」の2つの側面から「未来を築く元気な子どもをみなで支え、大切にすまのまちの実現」を図るという政策であるが、内部評価は、課題、原因ともに喫緊の課題である待機児童対策に集中してしまっている。0歳～18歳までの子どもが育っていく間には、様々な問題があるため幅広い視点で課題を抽出すべきであり、政策の課題認識としては両施策に跨るものも考えていく必要がある。</p>

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>昨年度のニーズ調査を基に今年度策定する「子ども・子育て支援事業計画」に、子どもに関する各種政策を部局横断的に位置づけ、各種事業を推進する。</p> <p>特に、待機児童については、国の待機児童解消加速化プランを活用して民間活力を引き出し、施設整備を先行して行う。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当ではない</p> <p>[理由・意見]</p> <p>「政策の課題と原因」と同様、待機児童対策に集中してしまっている。幅広い視点で課題を抽出したうえで、その解決を図っていくべきである。</p> <p>なお、待機児童問題の原因として「施設整備が追い付いていない」ことをあげていることから、既存施設の有効活用に積極的に取り組んでいくべきと考える。</p> <p>また、施策の指標ともなっている学校応援団については、今後さらに機能させていくため、教師の負担を軽減し、教師が地域住民と一緒に課題を共有し、事業を進めていく時間を作り出す必要がある。そのために地域社会や行政が何をすべきか、まず考えていくべきである。</p>

4 「構成する施策」の再評価

<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>「安心して子育てができるまちづくり」については、達成度が「C」であるため、費用対効果についても「効果」の部分が低いとの判断から「B」としているとのことであった。ただ、代表指標が施策全体の達成を測るものになっていないため、達成度にこだわらず、施策全体から生ずる効果から判断すれば、「A」とすべきと考える。</p> <p>また、「地域での子育てと子ども自らの子育てを支援するまちづくり」については、代表指標の1つである「学校応援団」の達成率が高いことから、達成度を「A」としているが、他の2つの代表指標は未達成となっている。複数の指標を持つ場合の達成度の考え方を整理する必要がある。</p> <p>なお、両施策とも重要性が高いため、順位に関わらず、積極的に進めてもらいたい。</p>

5 総括

(1) プロジェクト全体への取組に対する評価・意見（達成状況、良かった点・悪かった点など）

政策は、「静岡市は安心して子育てできるまちだと思える市民の割合」を指標としているが、単に「できた」のか「できなかった」のかを見るのではなく、世代別とするなど分析のできる指標を設定し、今後の取組の検討につなげる必要がある。指標を達成することが目的ではなく、政策の実現が目的であるため、アンケート結果の数値だけにとらわれずに、取組全体を見て政策の達成を判断することも必要と考える。

また、現在、全国的に待機児童対策が大きな課題となっていることから、課題や、その原因、解決策も待機児童対策に集中してしまっている。0歳～18歳までの子どもが育っていく間には、様々な問題があるため幅広い視点で課題を抽出すべきであり、政策の課題認識としては両施策に跨るものも考えていく必要がある。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき施策など）

この政策を実現していくためには、これまでのハード整備だけでなく、家庭、学校、地域が連携したソフト事業に取り組んでいくことが重要となる。

しかし近年、本来家庭で行うべきことを、学校に依存してしまう傾向があり、そのため教師にゆとりがなく、学校が主導的に家庭や地域と連携していくことが難しくなっていると思われる。

待機児童対策などの喫緊の課題に対応することも大切であるが、親や家庭の在り方を考えていくべきであり、子ども未来局がそれに気づいていることを、示していく必要があるのではないかと考える。

また、これからはハードの整備もソフト事業の充実も全てを行政単独で行うことは難しいと考える。新しい公共の考え方を取り入れ、行政と民間が協働し、また役割分担して事業を進めるべきであり、民間企業にも子育て支援サービスを充実させる動きがあることから、それを行政が後押しする取組なども必要と考える。

なお、児童虐待の問題でも教師は大きな役割を果たす。ここでも教師がゆとりをもって対応できる体制をつくるのが重要となるが、それとともに教師、民生委員、ケースワーカー、カウンセラーなどが認識を共有し、勉強する場が必要なのではないかと考える。

戦略 I-1 未来をひらく子どもプロジェクト

施策名 1-1-1 安心して子育てができるまちづくり

代表指標	主な子育て支援サービスの認知度 (H20) 59%→(H26) 70%
------	-------------------------------------

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>「子育て支援サービスの認知度向上」により、最適なサービスを利用でき安心して子育てにつながることから、適切な指標であるが、さらに利用者の満足度も指標としてふさわしいと考える。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>代表指標を「主な子育て支援サービスの認知度」としているが、認知により「安心して子育てができるまち」が実現することはないため、内部評価のとおりサービスの満足度と合わせて評価すべきと考える。</p> <p>また、認知度については、市民全体で子育てを支援することができるように、全ての世代への認知度を向上させていくべきであるが、特にサービスを必要としている人たちには、必要な情報が必ず届くように配慮しなければならない。</p> <p>なお、目標である70%の根拠が示されていないため、この数字を基に達成度を測ることが妥当かどうか不明である。</p>

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】 子育てサービスの認知度があまり伸びていない。</p> <p>【原因】 市民の置かれた状況に応じた利用可能なサービスの効果的な情報提供が不十分であったと思われる。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>課題認識に対する内部評価は妥当であるが、認知度の他に、サービスの質の向上についての課題もあるのではないかと。利用者の声を聞いて、サービスを向上させることを課題としてとらえてほしい。</p> <p>また、親の年齢や職業等により、求める情報が異なるので、きめ細かい情報発信が必要であり、更には、一方的に情報を提供するだけでなく、申込や相談など双方向でやり取りのできる仕組みも考えていくべきではないかと。</p> <p>原因については詳細な分析がされていないが、具体的にはICTの活用が十分ではないのではないかと。特に20代、30代女性の認知度向上のためには、スマートフォンに対応したコンテンツの充実が必要である。</p> <p>なお、サービス向上の課題に対しては、現状が悪いという認識ではなく、更に向上させていくべきという方向で原因をとらえてほしい。</p>

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>子育てに関する市民ニーズを踏まえて策定する「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、拡大・多様化する市民ニーズに応じた事業を推進するとともに、より効果的な周知方法を検討する。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>内部評価には、新しく策定する「子ども・子育て支援事業計画」について、「子育てに関する市民ニーズを踏まえて策定する」とあるが、声の大きい人の意見だけでなく、声の出せない人たちのニーズも集め、反映してもらいたい。パブリックコメントやタウンミーティングではつかめない意見をくみ取る仕組みを検討すべきである。</p> <p>また、「子ども・子育て支援事業計画」は、単に計画書を公表するのではなく、市民に伝わるように、その見せ方を検討する必要がある。</p>

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果：妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>内部評価は妥当と考える。ただ、優先順位については、順位の上下に捉われず、重要なことは積極的に進めてほしい。</p>

5 総括

(1) 施策全体への取組に対する評価・意見（達成状況、良かった点・悪かった点など）

施策全体としては、今後は、新しい公共の考え方を取り入れ、事業を進めるべきである。民間企業にも子育て支援サービスを充実させる動きがあることから、それを行政が後押しする取組も必要と考える。

また、これまでハードの整備を進めてきたが、今後はこれにソフト事業を融合させて、効果的に活用していかなければならない。それには協働の考え方が重要であるが、協働の相手方の育成も含めて事業を進めるべきであり、職員にもそのような認識が必要である。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

3次総においては、近年大きな問題となっている子どもの貧困と虐待についても取り組んでいってほしい。これらは、子どもだけの問題ではなく、大人の問題につながっている。貧困や虐待の経験を持つ大人が、様々な心の問題を抱えるケース、貧困や虐待を繰り返してしまうケースなどが見られる。教師、民生委員、ケースワーカー、カウンセラーなどが認識を共有し、勉強する場が必要なのではないかと考える。

戦略 I - 1 未来をひらく子どもプロジェクト

施策名 1-1-2 地域での子育てと子ども自らの子育てを支援するまちづくり

代表指標①	子どもに関する活動に参加している市民の割合 (H21)27%→(H26)35%
代表指標②	ファミリーサポート会員数 (H21)3,300会員→(H26)4,300会員
代表指標③	学校応援団実施校 (H21)13校→(H26)26校

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>子育て・子育てを、「地域で支援」するという施策に対して、いずれも適切な指標である。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当ではない</p> <p>[理由・意見]</p> <p>内部評価では、指標を適切としているが、「地域での子育てと子ども自らの子育てを支援する」という施策の指標としては、より総合的な指標が必要と考える。施策は「地域」と「子育て」がキーワードになっているが、代表指標は「地域」に関連するもののみとなっており、「子育て」の指標がかけている。また、指標を達成するため、どのような主要事業が貢献していくのか、指標と主要事業との関連が明確でない。</p> <p>ファミリーサポート事業については、ただ会員数を増やせば良いというものではなく、利用者の満足度などにより、質を問うべきと考える。</p> <p>学校応援団についても、指標の一つとすることは理解できるが、部分的のものである。指標には、心の教育や地域、コミュニティ、家庭の問題も加えるべきではないか。</p>

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①ファミリーサポート会員数があまり増加していない。</p> <p>②放課後児童クラブ待機児童が解消されていない。</p> <p>③地域全体が協力し、子どもを見守り育てることが求められている。</p> <p>【原因】</p> <p>①ファミリーサポート制度の周知が不足している。</p> <p>②放課後児童クラブの整備がニーズに追いついていない。</p> <p>③核家族化、地域コミュニティの希薄化を背景として、子どもと地域社会のつながりが低下している。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当ではない</p> <p>[理由・意見]</p> <p>内部評価では、ファミリーサポート会員数が増加していないことと、放課後児童クラブの待機児童が解消されていないことを課題としているが、これらはどちらも代表指標とはなっているものの事業の課題であり、施策全体の課題とはいえない。この施策は、学校と地域が、それぞれの範囲を超えて融合する施策であるので、その視点から課題を考える必要がある。</p> <p>また、原因の一つとして「子どもと地域社会のつながりの低下」を上げているが、それ以前に家庭における親と子どものつながりの問題が根底にあると思われる。</p>

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①②子育て世代の多様な選択肢に選ばれるよう、ニーズをきちんと把握し、これを「子ども・子育て支援事業計画」に反映させ、計画の着実な推進を図る。</p> <p>③学校、家庭、地域が連携して、社会を生き抜く力を持った子どもを育てる。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>課題解決の方向性としては良いが、内部評価にあるニーズの把握については、家庭や地域は学校と問題意識が違うため、対話を重視し、意思疎通を図るべきである。一步踏み出して、これからの家庭や地域の在り方を議論する必要がある。</p> <p>また、学校、家庭、地域が連携するためには、教育委員会や学校が主導的に動いていく必要があると考える。</p>

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果：妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>内部評価は妥当と考えるが、優先順位の上下に捉われず、特定少数の人を対象とするものであっても、重要なことは積極的に進めてほしい。</p> <p>また、「しずおか教師塾」については、教育者を育成する目的を持った唯一の事業であるため、優先順位はより高くあるべきと考える。</p> <p>なお、代表指標に直接かかわる事業が主要事業ではなく、関連事業となっており、主要事業の位置づけについて、考え方の整理が必要である。</p>
--

5 総括

(1) 施策全体への取組に対する評価・意見（達成状況、良かった点・悪かった点など）

地域での子育てと子ども自らの子育てを支援するという2つの目的を持った施策であるが、主要事業としては、主に「地域」に関する事業が少ないと思われる。

「課題解決の方向」の内部評価にもあるように、これからは学校、家庭、地域が連携していくことが重要となるが、ここで中心的な役割を果たすのは学校である。しかし、現在、教師は多忙を極めていることから、それぞれの教師がゆとりをもって課題に取り組むことのできる環境整備が必要と考える。そのため、社会や行政に何ができるのか、検討していく必要がある。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

3次総に向けては、子どもの学力や体力の向上に目を向けながらも、今後は、子どもたちに直接対応する教師の育成環境を整備することが重要であり、しずおか教師塾のような教師のための教育事業に更に力を入れるべきと考える。

今後は、更に家庭、地域、学校の連携が大切となってくるが、これまで親や地域の人々が学ぶ場が少なかったことから、子どもとのかかわりやそれぞれの役割に関する理解を深め、学校と力を合わせて子育てに取り組むことのできる環境整備を進める必要がある。更に、地域の人材が積極的に学校教育へ関わることのできる事業を取り入れていくべきである。

また近年、子どもの貧困が問題となっており、貧困が貧困を生むという現実もあることから、この一つの対策として、定時制高校の高校生への支援を充実させることが有効と考える。

政策・施策評価〔試行〕内部評価結果

戦略Ⅰ-1 未来をひらく子どもプロジェクト

政策レベル					施策レベル					主要事業											
政策	代表指標	達成状況	評価		所管	施策	代表指標	達成状況	評価		所管	主要事業コード	事業名	実績の評価				将来の評価		事業費 (百万円)	所管
			達成度	C					達成度	C				達成度	貢献度	費用対効果	総合評価	必要度	優先順位		
政策① (コード 1-1) 「未来を築く元気な子どもをみなで支え、大切にすまのまちの実」 地域ぐるみ・社会総がかりで、総合的な子育て・子育て環境を整備することにより、子ども・若者が自立心や社会性を培い、これからの地域社会を担っていきけるよう子育て・子育てしやすいまちを目指します。	静岡市は安心して子育てできるまちだと思ふ市民の割合 【21年度】57% ↓ 【26年度】70%	【25年度】64.9% [達成率]60.8%	達成度	C	保健福祉局 ◎子ども未来局 経済局 教育委員会事務局	施策① (コード 1-1-1) 安心して子育てができるまちづくり	代表指標① 主な子育て支援サービスの認知度 【20年度】59% ↓ 【26年度】70%	【25年度】63% [達成率]36.3%	実績の評価	C	保健福祉局 ◎子ども未来局	1-1-1-1	子ども医療費助成の拡大	A	A	B	A	B	15	8,504	子ども家庭課
												1-1-1-2	乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）	A	A	B	A	B	13	73	健康づくり推進課
												1-1-1-3	認可保育所の定員増	C	B	B	B	S	1	619	子ども未来課
												1-1-1-4	認定こども園の整備	—	—	—	—	S	2	759	子ども未来課
												1-1-1-5	民間保育園の耐震化	B	B	B	B	A	8	936	子ども未来課
												1-1-1-6	施設型小規模保育事業の実施	—	—	—	—	S	3	133	子ども未来課
												1-1-1-7	認可外保育施設移行支援	—	—	—	—	A	7	87	子ども未来課
												1-1-1-8	病中・病後児保育の拡充	C	B	B	C	A	10	29	保育課
												1-1-1-9	待機児童園の整備・運営	C	B	B	C	S	6	189	保育課
												1-1-1-10	保育士確保対策事業	—	—	—	—	S	5	5	子ども未来課
												1-1-1-11	幼稚園教諭免許・保育士資格併有促進事業	—	—	—	—	A	9	10	子ども未来課
												1-1-1-12	放課後児童クラブの整備・運営	B	B	B	B	S	4	1,974	子ども未来課
												1-1-1-13	妊婦健康診査事業	A	B	B	B	B	14	2,323	健康づくり推進課
												1-1-1-14	不妊治療助成事業	S	B	B	A	B	12	745	子ども家庭課
												1-1-1-15	子育て世帯支援体制強化事業	—	—	—	—	A	11	12	子ども未来課

【評価基準】

ア 実績に対する評価
〔政策・施策レベル・主要事業〕

(1) 達成度		評価点	(2) 貢献度		評価点
S	期待を上回る(達成率105%以上)	5	S	政策(施策)の実現に極めて大きく貢献している	5
A	期待通り(達成率90%以上105%未満)	4	A	政策(施策)の実現に大きく貢献している	4
B	期待をやや下回る(達成率70%以上90%未満)	3	B	政策(施策)の実現に貢献している	3
C	期待を下回る(達成率70%未満)	2	C	政策(施策)の実現にあまり貢献していない	2
D	実施していない(達成率0%以下)	0	D	政策(施策)の実現に貢献していない	1

〔施策レベル・主要事業〕

(3) 費用対効果		評価点	(4) 総合評価	
S	費用対効果が極めて高い	5	S	極めて有効(合計評価点 14~15)
A	費用対効果が高い	4	A	相当程度に有効(合計評価点 11~13)
B	費用と効果が均衡している	3	B	有効(合計評価点 8~10)
C	費用対効果が低い	2	C	あまり有効でない(合計評価点 5~7)
D	費用対効果が極めて低い	1	D	有効でない(合計評価点 2~4)

※合計評価点は、達成度、貢献度、費用対効果の評価点の合計

イ 将来に向けた必要性に対する評価 (完了した事業を除く。)
〔施策レベル・主要事業〕

(1) 将来に向けた必要度		(2) 将来に向けた優先順位	
S	必要性が極めて高い	上記の「ア(4)総合評価」と左記の「イ(1)将来に向けた必要度」を勘案して、優先順位を付ける。	
A	必要性が高い		
B	必要		
C	必要性が低い		
D	極めて必要性が低い		
—	事業完了などにより判断できない		

政策レベル					施策レベル					主要事業																																																			
政策	代表指標	達成状況	評価		所管	施策	代表指標	達成状況	評価			所管	主要事業コード	事業名	実績の評価				将来の評価		事業費 (百万円)	所管																																							
			達成度	C					達成度	貢献度	費用対効果				総合評価	必要度	優先順位																																												
政策① (コード 1-1) 「未来を築く元気な子どもをみなで支え、大切にするまちの実」 地域ぐるみ・社会総がかりで、総合的な子育て・子育て環境を整備することにより、子ども・若者が自立心や社会性を培い、これからの地域社会を担っていけるよう子育て・子育てしやすいまちを目指します。	静岡市は安心して子育てできるまちだと思われ市民の割合 【21年度】 57% ↓ 【26年度】 70%	【25年度】 64.9% 〔達成率〕 60.8%	達成度	C	保健福祉局 ◎子ども未来局 経済局 教育委員会事務局	施策② (コード 1-1-2) 地域での子育てと子ども自らの育ちを支援するまちづくり	代表指標① 子どもに関する活動に参加している市民の割合 【21年度】 27% ↓ 【26年度】 35%	代表指標① 【25年度】 30.1% 〔達成率〕 38.8%	実績の評価	達成度	A	子ども未来局 経済局 ◎教育委員会事務局	1-1-2-1	(再掲) 放課後児童クラブの整備・運営	A	B	B	B	A	6	1,974	子ども未来課																																							
																							貢献度	A	1-1-2-2	「静岡版道徳教育」の推進	B	B	B	B	B	12	1	学校教育課																											
																																			費用対効果	A	1-1-2-3	子どもの読書活動の推進	A	B	B	B	B	11	32	中央図書館															
																																															総合評価	A	1-1-2-4	学力・体力向上の支援	B	A	B	B	S	1	39	学校教育課			
										必要度	A				1-1-2-5	学校図書館教育の充実	A	B	B	B	A		8	284			学校教育課																																		
										優先順位	2						1-1-2-6	特別支援教育の推進	A	A	B		A	S				2	516	学校教育課																															
										事業費	11,823								1-1-2-7	スクールカウンセラー等の活用	B		B	B				B	A		4	418	学校教育課																												
										26,248	百万円										1-1-2-8		高等学校理数教育の推進	A				B	B		B	B			10	18			教育総務課																						
																								1-1-2-9				しずおか教師塾の充実	A		B	A			A	A				9	12	教職員課																			
																													1-1-2-10		こころの教育の支援	A			A	A				A	S		3	105	教職員課																
																																1-1-2-11			清水桜が丘高等学校の整備	B				B	B		B	-			-	6,995			教育施設課										
																																				1-1-2-12				学校給食を通じた食育、地産地消の推進	B		B	B			B	B				13	4	学校給食課							
																																									1-1-2-13		こどもクリエイティブタウンの整備	B			B	B				B	B		14	1,295	産業政策課				
																																												1-1-2-14			放課後子ども教室の実施	B				B	B		B	A			7	64	教育総務課
																																																1-1-2-15				学校応援団の充実	A		A	B			A	A	

政策名 ２－２ 人々や経済の交流が活発なまちの実現

代表指標①	年間観光入込客数 (H21)25,095千人→(H26)26,500千人
-------	--------------------------------------

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>①観光入込客数は活況の源泉であり、人や経済の交流度合いを測る指標として妥当である。</p> <p>②経済に視点を当てた代表指標も必要である。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標はプロモーションの展開としてのイベント数、参加者数等の方が望ましい。 ・経済の交流の観点からも指標を設定したらよかったのではないかと。 ・新幹線からの静岡駅乗降客数やビジネスを含む宿泊者数など、交流人口を指標としたものを加えた方がいいのではないかと。

2 「政策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①観光入込客数の増加要因は三保松原の富士山世界文化遺産構成資産登録効果（三保松原周辺観光地への客数増加）であり、当該観光客を全市的に周遊させること。</p> <p>②一時的な三保松原特需とならないよう継続的に観光客誘致に努める必要がある。</p> <p>【原因】</p> <p>①三保―日本平ラインから、旧静岡市側への観光客誘致に繋がっていない。</p> <p>②市内外でのPRが不足している。</p>	<p>ア評価結果 どちらかといえば妥当ではない</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題、原因が三保の松原に偏っている。(多数) <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡市の重大な課題は、公共交通網の利便性が悪いことであり、団体だけでなく、個人の交流の活性化を促進させるための、再検討が急務であると考えます。 ・静岡型コンパクトシティの実現、都市間の交流、高齢化の進展を考えると交通網の整備は必要。 ・久能山東照宮が国宝になり、三保松原が世界遺産の構成資産になった結果、これからのデータに反映されると思うが、もっとPRに力を入れるべきである。 ・点ではなく、面で整備し、いろいろなものを加えていくことが重要である。 ・浅間神社などを活用することも必要ではないかと。

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①市内観光地の有機的な繋がりが強化。</p> <p>②既存事業の着実な実施とブラッシュアップ。</p> <p>③引続き市内外でのPR実施。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当ではない</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高いプロモーションの推進はもとより、何度でも足を運びたいくなるような、プロジェクトを展開することが大事。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内外、県内外の人脈を駆使したネットワークづくりに力を入れ、組織的なPRにつなげることが大事である。 ・既存事業ありきの課題解決方法となっている。 ・役所の人脈づくりは異動があるので難しいが、専門職をつくるなど、コミュニケーションの方法を考える必要がある。

4 「構成する施策」の再評価

<p>評価結果どちらかといえば妥当ではない</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優先順位について、深刻な人口減少を食い止めるには、「産業誘致と地域資源の商品化」を第1優先とすべきではないか。 ・項目ごとの評価の整合性がもっと欲しい。 ・3つの施策に、複数の主要事業が再掲されているため、評価が違うことに違和感がある。 ・主要事業ごとに評価が違うのにどちらも妥当ということはおかしい。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価方法の見直しが必要である。 ・3次総に向けて、適切な評価を行い、予算化するには、どちらの評価を優先するのか、再考する必要がある。 ・いずれも必要度は高く、優先順位に差をつけることは不要と思われる。

5 総括

【外部評価の結果】

「人々や経済の交流が活発なまちの実現」を目指し、施策として「競争力のある観光資源づくり・シティイメージの定着」、「観光・交流の活性化」、「産業誘致と地域資源の商品化」の3つを掲げ取り組んでおり、各種イベントによる来場者数や新規企業立地数が確保されたことにより、観光入込客数が増加したことから、一定の成果はあったと考えられる。

しかしながら、シティイメージの定着については、ホビーや食材、文化施設など、市の有する地域資源を全てPRすることが、必ずしもシティイメージの定着に繋がるとは考えにくいいため、今後は、効果的なプロモーション方法を再検討する必要がある。

また、当政策は、観光交流や産業誘致を図ることで、最終的に地域経済を活性化させることが目標であることから、「久能山東照宮」や「三保松原」、「浅間神社」など、本市の魅力ある地域資源を有効活用し、観光交流人口を増加させることで経済活動を活発化させるとともに、企業誘致や企業留置により、雇用が確保されるよう、積極的に取り組むことが重要である。

(内部評価に対する意見)

内部評価の結果については、「指標的的確性」を除き、その分析結果が適正を欠いていると思われるため、どちらかといえば妥当でないと判断した。

まず、課題と原因については、観光入込客数の継続的な確保と回遊性が乏しいことなどを挙げているが、全てを「三保松原」という視点でしか、捉えておらず、偏った評価となっている。

また、課題解決の方向性についても、既存事業を継続することが前提となっており、PDCAサイクルによる事業の見直しなどの分析がされていない。

このことから、今後は、課題と原因を的確に捉え、その解決に向けた取組みを確実に実施していくよう努めていただきたい。

(地域経済の活性化)

地域経済を活性化させるためには、観光・交流の促進、産業の振興、物流の発展など様々な側面があるが、限られた財源の中、行政主導で全ての事業を充実させることは難しいと考えられる。

このため、今後は、市の有する特徴や魅力ある豊富な地域資源を民間企業と連携し、効率的にPRするとともに、有効活用することで観光誘致や経済活動に繋げていくことが重要である。

どちらかといえば、2次総では、政令市としての都市基盤づくりが中心であったため、ハード事業が多く存在していたが、これからは、「市民意識」、「芸術」、「歴史」、「伝統文化」など、ソフト事業を中心に展開するとともに、市内外の「人脈」を駆使したネットワークづくりに力を入れ、組織的で質の高いプロモーション活動を展開することで、地域経済の活性化に繋げていただきたい。

(政策・施策体系の見直し)

当政策は、3つの施策と47の主要事業（再掲含む）で構成されているが、観光や産業振興など地域経済の活性化に関わる全ての事業を、1つの政策に集約化しているため、政策・施策・主要事業における関連性や重要性などが非常に分かりにくい。

また、異なる施策に複数の主要事業が再掲されており、施策に対する主要事業の優先順位や貢献度が違うことにも違和感がある。このことから、3次総を策定する際は、政策・施策・主要事業の体系について、繋がりや関連性、優先順位などが、分かりやすくなるよう見直しが必要である。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき施策など）

（全体）

- ・事業の種類が多岐に渡るが、相互に関連があるものが多いので、連携を密にし、より効果が発揮できるよう期待する。
- ・2次総の「地域産業ブランディング」「活力と交流のネットワーク」との関連性を強化する必要がある。

（社会基盤の整備）

- ・静岡型コンパクトシティの実現を目指し、活発な交流と効率的な都市経営、効果的な都市基盤を図るべく、施策に取り組むべきである。
- ・静岡市の重大な課題は、公共交通網の利便性が悪いことであり、団体だけでなく、個人の交流の活性化を促進させるための、再検討が急務であると考え
- ・静岡型コンパクトシティの実現、都市間の交流、高齢化の進展を考えると交通網の整備は必要。

（その他）

- ・高齢化社会を念頭に置いて、3次総を構築していただきたい。

（効果的なPR方法）

- ・芸術家をもっと内外に売り込み、活動をサポートすることによって、彩り豊かなシティイメージにつなげる。（音楽家・画家・書道家など）
- ・久能山東照宮が国宝になり、三保松原が世界遺産の構成資産になった結果、これからのデータに反映されると思うが、もっとPRに力を入れるべきである。
- ・点ではなく、面で整備し、いろいろなものを加えていくことが重要である。
- ・浅間神社などを活用することも必要ではないか。
- ・市内外、県内外の人脈を駆使したネットワークづくりに力を入れ、組織的なPRにつなげることが大事である。
- ・役所の人脈づくりは異動があるので難しいが、専門職をつくるなど、コミュニケーションの方法を考える必要がある。

※政策の「課題と原因」の再評価や、「課題・解決の方向」等において、述べられた意見についても再掲している。

外部評価シート〔施策評価〕 戦略Ⅱ－２ シティプロモーション推進プロジェクト

施策名 2－2－1 競争力のある観光資源づくり・シティイメージの定着

代表指標①	お茶・マグロ・ホビー・サクラエビを国内外に誇れるものと思う市民の割合 (H21)お茶93%・マグロ72%・ホビー69%・サクラエビ93% → (H26)お茶95%・マグロ80%・ホビー80%・サクラエビ95%
-------	--

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>①多数ある観光資源のうち、食とホビーに焦点をあてたことは、市民にもわかりやすく、具体的であるため妥当である。</p> <p>②スポーツ、文化等に関する指標もあるべき。</p> <p>③施策は、「競争力のある観光資源づくり・シティイメージの定着」であるため、市民アンケート結果ではなく、首都圏での認知度など、外から見た指標であるべき。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の指標としては妥当であるが、全体として捉えるともっと工夫があっても良い。 ・食材だけを指標とするのではなく、レベルの高い「寿司・おでん」等の料理という面をアピールしたらどうか。 ・16の主要事業を「食とホビー」のみで評価するのは無理があるので、他の指標も加える必要がある。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光戦略となる観光資源づくりとシティイメージとなる指標とすべき。 (鮭やおでんなどを前面に押し出す必要があるのではないか) ・評価結果をとらえれば妥当であるが、今後の方向性の具体性に欠けることが問題である。

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】 多数ある観光資源の競争力強化に取り組む必要がある。</p> <p>【原因】 本市観光資源の他地域との差別化、PRが十分ではない。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源のPRが十分されているとは言えないことから妥当である。 ・評価は結果から捉えれば妥当であるが、PR不足という結果については、問題がある。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点ではなく、物語的につないでいく必要がある。 ・中心市街地の歴史的観光スポットを点ではなく、物語でつないでいくことで魅力が高まるのではないか。

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】 関係団体と協力して、観光資源を活用したシティイメージの定着を図っていく。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体、民間との取組方針を決定し、推進していくことが、望ましい。 ・スポット的に印象を与えることが大事であり、具体性に欠けることが問題である。 ・評価の表現（評価方法）が漠然としており、内容が分かりにくい。 ・観光資源アイテムを時系列的に集中的にPRしないと印象づけることが大事である。 ・観光資源と何か分からない。抽象的で解決方法が見つからない。 ・表現については妥当であるが、まず市の担当セクションが何をすべきか、具体策を考えることが重要である。その上で、関係団体等に協力を求めるようにすべきである。

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハード面よりもソフト面の充実が必要である。例えば、地域資源ブランディングの推進の優先順位を上げたらどうか。 ・清水港の客船誘致を推進すべきだと考えるため、優先順位を上げたらどうか。 ・複数の主要事業が施策に再掲されているが、各々で評価結果が違っている。内部で調整して評価する必要がある。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロ野球の球団創設には、多額の経費がかかるため、詳細をフィージビリティスタディが必要である。 ・登呂遺跡の特徴である水田跡地をもっとPRする必要がある。 ・主要事業数が多すぎて、相互の関連性やどれが重要なのが分かりにくく、全体として評価することは難しいため、もう少し、小さくくりが必要ではないか。

5 総括

(1) 施策全体の総括

「競争力のある観光資源づくり・シティイメージの定着」を目指し、「南アルプスの魅力発信・自然保護」、「文化事業の推進」、「スポーツ・レクリエーションの推進」、「ホビー・お茶のまちの推進」など、数多くの主要事業に取り組んでおり、本市を代表する「お茶・マグロ・ホビー」を国内外に誇れるものと思う市民の割合が向上していることから、一定の成果はあったと考えられる。

しかしながら、当審議会においても、あまり知られていない施設や事業もあるため、シティイメージの定着に繋がっているか、疑問が残るところである。

また、施策を構成する主要事業が非常に多く、相互の関連性、重要性が非常に分かりにくいいため、イメージが漠然としてしまうと考えられる。

このことから、今後は本市の目指す「シティイメージ」を明確にした上で、事業にメリハリをつけ、優先順位付けを行うなど、スポット的に印象づけるよう取組むとともに、関連性を持たせることで、各事業を点ではなく面で整備し進めることが重要である。

(内部評価に対する意見)

内部評価の結果については、全ての項目について、若干の修正意見はあるものの、全体的な視点から概ね妥当と判断した。

しかしながら、特に、指標的的確性については、

- ・当施策は16の主要事業から構成されており、全ての主要事業を1つの指標で評価することは難しい。今後は、必要に応じ、指標を複数設定する必要がある。

- ・指標が、ホビー以外は全て食材であり、代表指標の範囲が狭い。静岡市には、レベルの高い料理が数多く存在するため、「寿司・おでん」なども加え、もっとPRする必要がある。 などの意見もあったことから、今後、検討いただきたい。

(事業のPR)

本市は、「登呂遺跡・博物館」、「芹沢銈介美術館」、「ホビースクエア」など、市の歴史・文化・地場産業を代表する史跡や施設を有しており、工夫を凝らした企画展や体験学習等を実施しているが、効果的なPRがされておらず、誘客効果に結びついていないと考えられる。

このため、今後は、各施設が有する特徴を強調したPRを展開するほか、デジタルサイネージ等を活用したアイキャッチ効果や各施設とのタイアップによる相乗効果などにより、集客力を向上させるよう取組むことが必要である。

(事業の集中と選択)

限られた財源の中で、事業の集中と選択を行い、メリハリをつけることは、非常に重要であり、特に、「プロ野球地元球団創設構想の推進」については、球団創設に、多額の経費がかかるため、フューチャビリティスタジアムが必要であると考えられる。

また、これからの時代は、ハード面よりもソフト面の充実が必要であり、特に観光を支える最大の条件は、「食」と考えられることから、従来の「食材」に「料理」という視点を加えて、シティイメージを定着させていく必要がある。

なお、静岡の中心市街地に屋台といったテンポラリーなインフラを設置して、観光資源のPRに繋げていったらよいのではないかと。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

（全体）

- ・重点項目・優先順位をつけてメリハリをつけるとともに、点ではなく面で整備し、進めることが大事。
- ・ハード面よりソフト面を充実させ、シティイメージを定着させる。
- ・事業目的をしっかりと作成し、その目的達成のために何をすべきかを考えなければならない。
- ・効果は経費削減だけでなく、必要などころにはつけるなどメリハリが必要。
- ・2次総では、あれもこれもやるという形となっているが、3次総では見直して欲しい。
- ・事業目的を設定し、PDCAサイクルにより見直すことが大事。
- ・主要事業数が多すぎて、相互の関連性やどれが重要なかが分かりにくい。もう少し、大きなくくりが必要ではないか。

（効果的なPR・地域資源の活用）

- ・観光を支える最大の条件は食である。寿司、おでん、そば、とろろ汁などの郷土食の店をわかりやすく案内する、印刷・デジタルサイネージなどを充実させることが大事である。
- ・駅を中心とした屋台村なども効果的ではないか。
- ・食の静岡をPRする必要がある。
- ・登呂遺跡の特徴である水田跡地をもっとPRする必要がある。
- ・市の地形を活かし、お茶等の特産品はもとより、自然をアピールしていくことが大事。
- ・観光戦略となる観光資源づくりとシティイメージとなる指標とすべき。

（鮭やおでんなどを前面に押し出す必要があるのではないか）

- ・中心市街地の歴史的観光スポットを点ではなく、物語でつないでいくことで魅力が高まるのではないか。
- ・スポット的に印象を与えることが大事であり、具体性に欠けることが問題である。
- ・観光資源アイテムを時系列的に集中的にPRしないと印象づけることが大事である。

（その他）

- ・静岡駅北側市街地を有効活用するべき。
- ・プロ野球の球団創設には、多額の経費がかかるため、詳細をフィージビリティスタディが必要である。

※施策の「課題と原因」の再評価や、「課題・解決の方向」等において、述べられた意見についても再掲している。

施策名 2－2－2 観光・交流の活性化

代表指標①	観光ボランティア参加者数 (H21) 314人→(H26) 500人
代表指標②	コンベンション・全国大会の年間誘致数 (H21) 190件→(H26) 230件

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>現時点では、指標として適確である。</p> <p>①観光ボランティア参加者数の増加は、市民が一体となって観光客をおもてなしする姿勢の表れであり、観光入込客数の増加へとつながる。</p> <p>②コンベンション等の誘致数増加は、観光・交流の機会増加を意味し、活性化の指標として妥当である。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンベンション、全国大会の年間誘致数は、静岡市の経済効果が大となるため、指標としての的確である。 ・ボランティア数の増加が、誘致に繋がるわけではないので、コンベンション、全国大会への参加者数を加えた方が良い。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民がみんなで「おもてなし」にあたるという意識が大切である。 ・市民1人1人が観光大使をいう気持ちという意識を持ち、接することが重要である。

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①大規模なイベント等を誘致できないこと。</p> <p>②豊富な資源の活用不足と本市の知名度不足。</p> <p>【原因】</p> <p>①大型コンベンション施設や宿泊施設等の不足。</p> <p>②既存資源に係る魅力の認識不足と情報発信不足。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な資源に対する「市民の認識不足・活用不足」が「本市の知名度不足」になっており、評価は妥当と考える。 ・コンベンションや宿泊施設がないということ、課題・原因として捉えてよいのか。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場のロケーション、アクセス、キャパシティ、設備等について、一覧性のあるビジュアルなURL等を充実させることが必要である。 ・評価結果から見れば妥当である。 ・施設がないということで課題・原因と云っていいのか疑問である。

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①観光客を受け入れるための体制づくり</p> <p>②観光・交流プログラムの充実、国内外へのプロモーション強化</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション強化が重要であることから妥当である。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国各地での物産展・観光案内まつりを行っているように、百貨店などに出かけていきPRすることが大事である。 ・評価はいいが、次に何をすることが重要である。

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティア参加者数が多いから「S」と評価するのは妥当ではない。 ・ポートセールスなどは「C」となっているが、達成したのか、結果がダメだったのか分からない。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策1は各論であるのに対し、施策2との関連性があるといい。
--

5 総括

(1) 施策全体をととしての意見

「観光・交流の活性化」を目指し、「シティプロモーション」、「各種イベント」、「コンベンション誘致」など、数多くの主要事業を実施しており、市内外から多くの観光客を集客するとともに、目標には達していないが全国大会も誘致できているため、一定の成果はあったと考えられる。

しかしながら、観光・交流においては、市民1人1人が観光大使となり、観光客を「おもてなし」という、意識が大切であり、市の有する既存の資源を最大限に活用し、効果的にPRすることで、更に集客力を高めることが可能と考えられる。

このことから、大規模なイベントが誘致できない原因を、コンベンション・宿泊施設がないためと捉えるのではなく、「地場産品」、「伝統芸能」、「伝統工芸」、「自然環境」などの資源の掘り起こしに努めて、これらの魅力ある資源を、観光・交流の活性化に繋げ、進めていくことが重要である。

(内部評価に対する意見)

内部評価結果については、全ての項目について、若干の修正意見はあるものの、全体的な視点から概ね妥当と判断した。

しかしながら、先に述べたように、市民意識や地域資源の掘り起こしが不足しており、豊富な資源が十分活用がされていないことが主な課題・原因であると考えられるため、今後、観光・交流を進める際は、ハード面よりソフト面を充実させるよう、検討いただきたい。

(地域資源の再認識と市民意識の醸成)

本市には、日本の伝統を守り受け継ぐ、優れた「清水芸妓」や、駿府に永住した名工たちの技術と伝統が受け継がれている「伝統的工芸品」、世界文化遺産「富士山」の構成資産となった「三保松原」のほか、地域に根付くお祭りや伝統芸能など、様々な魅力ある地域資源が存在している。

しかしながら、このような貴重な資源を市民が認識しておらず、効果的なプロモーション活動が展開されていないため、本市の認知度向上に繋がっていないと考えられる。

このため、今後は、地域資源の魅力を再認識できるよう、市民意識の醸成を図るとともに、「おもてなし」の心を市民全体が共有できるよう、積極的に働きかけていただきたい。

(プロモーションの強化)

観光・交流を活性化させるには、本市の地域資源をいかにして効果的にプロモーションするかが重要である。

従来どおり、行政が主体となってPRすることも必要であるが、周知方法・範囲には限界があることから、民間企業と連携するなど企業メディアを効果的に活用することで、市の認知度と集客力の向上に努めていただきたい。

また、プロモーションの方法として、フィルムコミッションも有効な手段であると考えられるため、本市の豊かな自然環境や貴重な文化財などを積極的に活用するよう、取り組んでいただきたい。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

（全体）

- ・主要事業がたくさんあるが、関連をもって有効に実施されればよい。
- ・施策と政策がほぼ同一の内容である。施策名は「シティプロモーションの推進」とした方がいいのではないか。
- ・市民がみんなで「おもてなし」にあたるという意識が大切である。
- ・市民1人1人が観光大使をいう気持ちという意識を持ち、接することが重要である。

（優先順位付け）

- ・ソフト面を充実させること必要がある。

（伝統芸能の普及）

- ・歴史ある清水の伝統芸能「清水芸妓」をさらに普及させる必要がある。

（効果的なPR方法）

- ・JR、航空各社、JAFなどに記事稿の売り込みを活発にしたらどうか。
- ・会場のロケーション、アクセス、キャパシティ、設備等について、一覧性のあるビジュアルなURL等を充実させる必要がある。
- ・全国各地での物産展・観光案内まつりを行っているように、百貨店などに出かけていきPRすることが大事である。

（その他）

- ・3次総に向け、男女共同参画の観点で、女性の意見を多く採り入れ、よりブラッシュアップした内容としていただきたい。

※施策の「課題と原因」の再評価や、「課題・解決の方向」等において、述べられた意見についても再掲している。

施策名 2－2－3 産業誘致と地域資源の商品化

代表指標①	新規企業立地数 (H21) 17社→(H26) 87社
-------	-----------------------------

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>①産業活性化の指標の一つとして企業立地件数は妥当。物流量も代表指標となりえる。</p> <p>②地域資源を活用した商品化についても指標を追加すべき。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業立地数のみならず、市から流出した企業の件数も勘案して指標としたらどうか。 ・代表指標は複数あってもいいのではないか。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートセールスの改善方法、向上はないのか。

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①企業立地が十分に進んでいない。</p> <p>②港の貨物取扱量が10%以上減少。</p> <p>③地域資源の商品化は進んでいるが販売に繋がっていない。</p> <p>【原因】</p> <p>①企業のニーズと本市の現状（地価・土地面積等）が折り合わない。</p> <p>②景況が回復していない。</p> <p>③販売のノウハウ不足（販路開拓・ターゲット設定等）</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内企業の留置の対策が十分ではないことも課題としてある。 ・静岡の地形（平地が少ない）も課題の1つではないか。 ・地形的な問題もあるが、企業立地を計画手に描いてみて、アプローチすることも考える必要がある。 ・景気回復を原因として捉えているが、施策の原因とはならないのではないか。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職人気質もいいが、売れる商品を考える必要がある。

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①企業ニーズを把握するとともに、バックオフィスやコールセンターといった都市型産業誘致を強化する。</p> <p>②中部横断道をPRし、貨物取扱量増加を図る。</p> <p>③既存の産業支援施設との連携や、商品開発については常に販売まで見据えた支援を進める。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市型産業誘致は重要だが、バックオフィスやコールセンターを解決の取組みとしているが、現実的ではない。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラスティックかもしれないが、販売から遡って、商品開発を行うことが重要である。 ・中部横断道の活用など市の考え方を出した方がいい。 ・新旧東名高速など交通インフラの活用が重要である。 ・コンテンツ産業など、フーズサイエンスヒルズの方が、より必要ではないのか。

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部横断道利活用検討可能性調査に比べ、ポートセールスの推進に将来の必要性が低いので、優先順位を上げたかどうか。 ・中部横断道の役割は大きい。南部道路がなく発展が厳しいことから、これから活用する必要がある。

5 総括

(1) 施策全体をととしての意見

「産業誘致と地域資源の商品化」を目指し、「企業誘致」、「ポートセールス」、「新商品開発」、「伝統工芸」などの、事業に取り組んでおり、市内の新規企業立地件数や清水港における貨物取扱量、地場産業に係る商品開発数等において、目標値が概ね確保されていることから、一定の成果はあったと考えられる。

しかしながら、市内部においても認識しているように、地価や土地面積などの関係から、企業立地が十分進んでいないことや、開発した商品が販売に繋がらないなど、施策の成果が地域経済の活性化に効果的に結びついていない状況である。

このことから、企業立地については、諸々の課題から他地域からの新規誘致は、非常に難しいと考えられるため、市内の企業が流出しないよう留置対策にも十分配慮するとともに、商品開発については、消費者ニーズを十分把握した上で、効果的に販売に繋げていくよう、民間企業とより一層連携を図ることが重要である。

(内部評価に対する意見)

内部評価結果については、全ての項目について、若干の修正意見はあるものの、全体的な視点から概ね妥当と判断した。

しかしながら、指標の的確性については、企業立地件数は妥当であると考えられるが、全ての主要事業を1つの指標で評価することは難しいため、施策の達成度が把握できるよう、複数の指標を設定する必要がある。

また、都市型産業誘致は必要だが、課題解決の方法として、バックオフィスやコールセンターの取組みを挙げているが、市内部では、静岡市は平地が少なく、地価が高いこと等を諸課題として捉えている。

現在では、コールセンターを沖縄や海外に設けるという時代であるため、コールセンターを本市に設置することは現実的でないことから、再検討する必要がある。

(企業留置対策)

地域経済の活性化において、企業立地は非常に重要な役割を担っており、積極的に事業を進めることは必要であるが、安定した地域経済と雇用を確保するためには、市内から企業を流出させないことが重要である。

しかしながら、これまでは、流出した企業数などは把握されておらず、十分な企業留置に対する対応が行われているとは言えないため、今後は、企業の流出対策にも焦点をあて、その対応策について検討する必要がある。

(交通インフラの活用)

本市は地形的な理由から、南北の交通インフラが充実していなかったが、今後、「中部横断自動車道」が開通することで、産業誘致や物流等に大きな効果が期待できることから、その活用を十分検討し、地域経済の活性化に繋げていくよう努めていただきたい。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

（公共交通機関の整備・活用）

- ・産業誘致には新幹線「のぞみ」を静岡に停車させ、「ひかり」は全本数、停車させるよう働きかける必要がある。
- ・中部横断道の活用など市の考え方を出した方がいい。
- ・新旧東名高速など交通インフラの活用が重要である。

（効果的なPR方法）

- ・メディアの力は大きいので、映画ロケ（フィルムコミッション）の誘致に力をいれる必要がある。

（効果的な販売促進）

- ・職人気質もいいが、これからは販売から遡って、商品開発を行うことが重要である。

（その他）

- ・コンテンツ産業など、フーズサイエンスヒルズの方が、より必要ではないのか。

※施策の「課題と原因」の再評価や、「課題・解決の方向」等において、述べられた意見についても再掲している。

政策・施策評価〔試行〕内部評価結果

戦略Ⅱ-2 シティプロモーション推進プロジェクト

政策レベル					施策レベル					主要事業											
政策	代表指標	達成状況	評価		所管	施策	代表指標	達成状況	評価		所管	主要事業コード	事業名	実績の評価				将来の評価		事業費 (百万円)	所管
			達成度	S					達成度	C				達成度	貢献度	費用対効果	総合評価	必要度	優先順位		
政策⑤ (コード 2-2) 「人々や経済の交流が活発なまちの実現」 大交流時代が到来するなか、本市の優れた自然や、長い歴史や市民に培われてきた文化、観光資源、集積した都市機能、イベント等の価値をみがき、国内外に本市の魅力幅広く情報発信することにより、まちのイメージ向上と人々の交流や経済の交流を促進します。	年間観光入込客数 【25年度】27,612千人 [達成率] 179% 【21年度】25,095千人 ↓ 【26年度】26,500千人	◎経済局 地域活性化事業本部 総務局 企画局 生活文化局 環境局	達成度 S	事業費 10,349 百万円	施策① (コード 2-2-1) 競争力のある観光資源づくり・シティイメージの定着	代表指標① お茶・マグロ・ホビー・サクラエビを国内外に誇れるものと思う市民の割合	【25年度】 お茶94.1% マグロ77.3% ホビー73.9% サクラエビ92.5% [達成率] お茶55.0% マグロ66.3% ホビー44.5% サクラエビ0%以下 【21年度】 お茶93% マグロ72% ホビー69% サクラエビ93% ↓ 【26年度】 お茶95% マグロ80% ホビー80% サクラエビ95%	実績の評価 達成度 C 貢献度 B 費用対効果 B 総合評価 B	◎経済局 生活文化局 環境局	将来の必要性の評価 必要度 A 優先順位 2	事業費 5,880 百万円	2-2-1-1	南アルプス世界自然遺産登録及びユネスコエコパーク登録の推進	B	A	A	A	S	2	100	清流の都創造課
												2-2-1-2	「寿司の都・しずおか」創造プロジェクトの推進	B	B	B	B	B	13	3	観光シティ・プロモーション課
												2-2-1-3	多彩な文化事業の実施	A	B	B	B	B	7	1,635	文化振興課 観光CP課
												2-2-1-4	歴史文化施設の整備	C	B	B	B	B	9	40	文化財課
												2-2-1-5	史跡等の活用	A	B	B	B	B	6	48	文化財課
												2-2-1-6	無形民俗文化財等の保存伝承	B	B	B	B	B	12	11	文化財課
												2-2-1-7	ホームタウンの推進	A	B	B	B	A	4	51	スポーツ振興課
												2-2-1-8	プロ野球地元球団創設構想の推進	A	B	A	B	B	11	20	スポーツ振興課
												2-2-1-9	日本平動物園の再整備	A	A	A	A	-	-	3,354	日本平動物園
												2-2-1-10	グラウンドゴルフ場によるニューツーリズムの創出	C	B	B	B	B	10	92	観光シティ・プロモーション課
												2-2-1-11	「東海道歴史街道」をテーマとしたまち歩き観光の推進	C	B	B	B	B	14	70	観光シティ・プロモーション課
												2-2-1-12	体験型観光の振興	A	B	B	B	B	8	50	観光シティ・プロモーション課
												2-2-1-13	観光戦略の推進	A	B	B	B	S	1	8	観光シティ・プロモーション課
												2-2-1-14	地域資源ブランディングの推進	B	B	B	B	B	15	15	観光シティ・プロモーション課
												2-2-1-15	「お茶のまち静岡」の推進	B	B	B	B	A	3	31	農業政策課
												2-2-1-16	「ホビーのまち静岡」推進事業 静岡ホビースクエア維持管理	A	B	B	B	A	5	351	産業振興課

【評価基準】

ア 実績に対する評価

〔政策・施策レベル・主要事業〕		〔施策レベル・主要事業〕	
(1)達成度	評価点	(2)貢献度	評価点
S 期待を上回る(達成率105%以上)	5	S 政策(施策)の実現に極めて大きく貢献している	5
A 期待通り(達成率90%以上105%未満)	4	A 政策(施策)の実現に大きく貢献している	4
B 期待をやや下回る(達成率70%以上90%未満)	3	B 政策(施策)の実現に貢献している	3
C 期待を下回る(達成率70%未満)	2	C 政策(施策)の実現にあまり貢献していない	2
D 実施していない(達成率0%以下)	0	D 政策(施策)の実現に貢献していない	1

〔施策レベル・主要事業〕		〔施策レベル・主要事業〕	
(3)費用対効果	評価点	(4)総合評価	評価点
S 費用対効果が極めて高い	5	S 極めて有効(合計評価点 14~15)	
A 費用対効果が高い	4	A 相当程度に有効(合計評価点 11~13)	
B 費用と効果が均衡している	3	B 有効(合計評価点 8~10)	
C 費用対効果が低い	2	C あまり有効でない(合計評価点 5~7)	
D 費用対効果が極めて低い	1	D 有効でない(合計評価点 2~4)	

※合計評価点は、達成度、貢献度、費用対効果の評価点の合計

イ 将来に向けた必要性に対する評価 (完了した事業を除く。)

〔施策レベル・主要事業〕		〔施策レベル・主要事業〕	
(1)将来に向けた必要度		(2)将来に向けた優先順位	
S 必要性が極めて高い		上記の「ア(4)総合評価」と左記の「イ(1)将来に向けた必要度」を勘案して、優先順位を付ける。	
A 必要性が高い			
B 必要			
C 必要性が低い			
D 極めて必要性が低い			
- 事業完了などにより判断できない			

政策レベル					施策レベル					主要事業												
政策	代表指標	達成状況	評価		所管	施策	代表指標	達成状況	評価		所管	主要事業コード	事業名	実績の評価				将来の評価		事業費 (百万円)	所管	
			達成度	S					達成度	S				達成度	貢献度	費用対効果	総合評価	必要度	優先順位			
政策⑤ (コード 2-2) 「人々や経済の交流が活発なまちの実現」 ↓ 大交流時代が到来するなか、本市の優れた自然や、長い歴史や市民に培われてきた文化、観光資源、集積した都市機能、イベント等の価値をみがき、国内外に本市の魅力幅広く情報発信することにより、まちのイメージ向上と人々の交流や経済の交流を促進します。	年間観光入込客数	【25年度】 27,612千人	達成度	S	◎経済局 地域活性化事業本部 総務局 企画局 生活文化局 環境局	施策② (コード 2-2-2) 観光・交流の活性化	代表指標① 観光ボランティア参加者数	【25年度】 1,174人	実績の評価	達成度	S	地域活性化事業本部 総務局 企画局 生活文化局 経済局	2-2-2-1	G20級国際会議の誘致推進	C	B	B	B	A	3	94	観光シティ・プロモーション課
	【21年度】 25,095千人	〔達成率〕 179%					事業費	10,349 百万円		代表指標② コンベンション・全国大会の年間誘致数	【25年度】 163件		貢献度	B	2-2-2-2	シティプロモーションの推進	A	B	C	B	A	10
	【26年度】 26,500千人		【21年度】 314人 ↓ 【26年度】 500人	費用対効果	B	2-2-2-3				広報お知らせ事業	A		B	B	B	A	8	766	広報課			
	【26年度】 26,500千人	【21年度】 190件 ↓ 【26年度】 230件	総合評価	A	2-2-2-4	環駿河湾サミットの開催	A	D		C	C		C	24	0	企画課						
			将来の必要性の評価	必要度	S	2-2-2-5	南北軸の都市との連携	A	B	B	B	B	20	0	企画課							
			事業費	3,178 百万円	優先順位	1	2-2-2-6	静岡都市圏の連携	A	C	C	B	C	22	1	企画課						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（市民大音楽祭・将棋名人戦）	A	A	A	A	A	6	37	文化振興課						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（大道芸ワールドカップin静岡開催補助金）	S	S	S	S	S	1	462	観光シティ・プロモーション課						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（静岡まつり開催補助事業）	B	A	A	A	A	5	309	観光シティ・プロモーション課						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（清水みなど祭り開催補助金）	A	A	B	A	B	7	272	観光シティ・プロモーション課						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（安倍川花火大会開催補助金）	A	A	A	A	A	4	161	地域活性化事業推進本部						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（「シズカン」プロジェクトの推進）	C	B	B	B	A	12	27	地域活性化事業推進本部						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（徳川家康公顕四百年記念事業の推進）	A	B	B	B	S	2	55	地域活性化事業推進本部						
							2-2-2-7	多彩な交流事業の推進（徳川家康公顕四百年記念事業の推進・静岡マラソンの開催）	B	B	B	B	B	11	80	スポーツ振興課						
							2-2-2-8	駿河湾海上交通の活性化	S	B	B	A	B	18	6	清水港振興課						
							2-2-2-9	中部横断道利活用検討可能性調査	-	-	-	-	-	-	10	10	企画課					
							2-2-2-10	（再掲）グラウンドゴルフによるニューツーリズムの創出	C	B	B	B	B	16	92	観光シティ・プロモーション課						
							2-2-2-11	教育旅行の誘致	A	A	B	A	A	13	50	観光シティ・プロモーション課						
							2-2-2-12	観光プロモーションの推進	A	B	B	B	A	15	13	観光シティ・プロモーション課						
							2-2-2-13	（再掲）「東海道歴史街道」をテーマとしたまち歩き観光の推進	C	B	B	B	B	17	70	観光シティ・プロモーション課						
						2-2-2-14	（再掲）地域資源ブランディング事業の推進	B	B	B	B	C	21	15	観光シティ・プロモーション課							
						2-2-2-15	（再掲）体験型観光の振興	A	B	B	B	B	19	50	観光シティ・プロモーション課							
						2-2-2-16	コンベンション誘致（MICE）	B	B	B	B	A	9	143	観光シティ・プロモーション課							
						2-2-2-17	ポートセールスの推進	C	C	C	C	C	23	26	清水港振興課							
						2-2-2-18	（再掲）観光戦略の推進	A	B	B	B	A	14	8	観光シティ・プロモーション課							

政策レベル					施策レベル					主要事業															
政策	代表指標	達成状況	評価		所管	施策	代表指標	達成状況	評価		所管	主要事業コード	事業名	実績の評価				将来の評価		事業費 (百万円)	所管				
			達成度	S					達成度	A				達成度	貢献度	費用対効果	総合評価	必要度	優先順位						
政策⑤ (コード 2-2) 「人々や経済の交流が活発なまちの実現」 大交流時代が到来するなか、本市の優れた自然や、長い歴史や市民に培われてきた文化、観光資源、集積した都市機能、イベント等の価値をみがき、国内外に本市の魅力幅広く情報発信することにより、まちのイメージ向上と人々の交流や経済の交流を促進します。	年間観光入込客数	【25年度】 27,612千人	達成度	S	◎経済局 地域活性化事業本部 総務局 企画局 生活文化局 環境局	施策① (コード 2-2-3) 産業誘致と地域資源の商品化	代表指標① 新規企業立地数	【25年度】 83件	実績の評価	達成度	A	企画局 ◎経済局	2-2-3-1	企業立地の促進	A	B	B	B	S	1	1,270	産業振興課			
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%					事業費	10,349		百万円	事業費		1,945	百万円	貢献度	B	2-2-3-2	(再掲) 「お茶のまち静岡」の推進	B	B	B	B	B	B	8
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	費用対効果	B											2-2-3-3	(再掲) 「ホビーのまち静岡」の推進	A	B	B	B	B	B	B	7	351
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	総合評価	B			2-2-3-4	(再掲) 中部横断道利活用検討可能性調査		-	-		-	-	-	-	-	-	-	10	企画課				
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	必要度	A			2-2-3-5	(再掲) ポートセールスの推進	C	B	B		B	B	B	B	B	9	26	清水港振興課					
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	優先順位	3			2-2-3-6	コンテンツバレー構想の推進	B	B	B		B	B	B	B	B	10	33	産業政策課					
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	事業費	1,945			百万円	2-2-3-7	中小企業の新規市場開拓・新分野進出への支援	B	B		B	B	A	B	A	3	12	産業政策課 産業振興課					
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	事業費	1,945			百万円	2-2-3-8	新商品等開発の支援	B	B		B	B	B	B	B	B	5	29	産業振興課				
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	事業費	1,945			百万円	2-2-3-9	見本市・販路開拓推進	B	B		B	B	B	B	B	B	4	63	産業振興課				
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	事業費	1,945			百万円	2-2-3-10	新事業創出のための研究開発	A	B		B	B	B	B	B	B	11	60	産業政策課				
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	事業費	1,945			百万円	2-2-3-11	伝統工芸技術の保存、伝承	A	B		B	B	B	B	B	B	12	9	産業振興課				
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	事業費	1,945			百万円	2-2-3-12	新製品の開発推進（ニューウェーブしずおか創造）	B	B		B	B	B	B	B	B	6	33	産業振興課				
	【21年度】 25,095千人 ↓ 【26年度】 26,500千人	[達成率] 179%	事業費	1,945			百万円	2-2-3-13	伝統工芸産業技術の後継者育成支援	B	B		B	B	B	B	B	B	13	18	産業振興課				

戦略Ⅲ－１ 活力と交流のネットワークシティプロジェクト

政策名 3－1 快適で質の高いまちの実現

代表指標	中心市街地はにぎわいや魅力が増したと感じる市民の割合 【静岡】(H21)34% → (H26)60% 【清水】(H21)4% → (H26)20%
------	---

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>「中心市街地はにぎわいや魅力が増したと感じる市民の割合」は、政策が実現された状態の一部分を表すことには適しているが、この政策は、都心、副都心、地域拠点とそれらをつなぐ交通アクセスまでを含めたものであることから市全体で快適で質の高いまちを目指す指標としては、不十分であったと考えられる。</p> <p>例えば静岡市が「住みやすい」または「アクセスしやすい」と感じる市民の割合などの視点が必要。</p>	<p>評価結果：妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>指標は、「中心市街地のにぎわい」に限定したものであるが、内部評価のとおり、この政策は「賑わいと交流・連携のある都市づくり」と「アクセスしやすい都市づくり」の2つの側面から「快適で質の高いまち」を実現しようとするものであることから、代表指標としては、更に幅広い視点が必要ではないかと考える。</p> <p>また、人口動態は変わっていくため、指標は、これを前提に設定すべきである。</p> <p>なお、政策の目的を考えると、生きることの原点である「働くこと」や「命を守る（医療・保健）」、「教育・文化」についての視点も必要ではないか。</p>

2 「政策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①「中心市街地はにぎわいや魅力が増したと感じる市民の割合」が、あまり向上していない。</p> <p>②アクセスの利便性について、道路全般における満足度が向上していない、また、依然として渋滞対策に対するニーズが高い。</p> <p>③市の財政負担の増加が想定される。</p> <p>【原因】</p> <p>①にぎわいや魅力向上には、ハード整備だけでなく、ソフト事業が必要。</p> <p>②アクセスの利便性向上に関する市民の期待は非常に高いものがあること、公共交通の利用が伸びず、車の利用率が依然として高いこと。</p> <p>③事業要望の増加及び同一時期への集中。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>内部評価の課題認識は妥当であるが、原因については、産業構造など道路や都市計画とは別の要素もあるため、多方面からの分析が必要である。特に、産業の衰退は「にぎわいや魅力が増したと感じる市民の割合」が増加しなかった大きな要因になっていると考えられる。</p> <p>なお、内部評価の「ソフト事業が必要」という部分は、原因としては「ソフト事業が不足している」ととらえることができる。</p>

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①指定管理者や民間団体等と協働して市民周知の実施や賑わい創出を実現するための事業展開により利用者の増加を図る。</p> <p>②交通管理者、交通事業者、地元等と引き続き一体となって公共交通網や拠点、道路網の整備に取り組み円滑な交通の確保を進める。</p> <p>③新たに制定した方針・基準の運用により、事業の量と質の適正化と事業年度の分散化を図る。</p>	<p>評価結果：妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>課題解決の方向性としては妥当であるが、具体的な解決策が見えない。実際にどのようなことを行っていくのか、実現可能性が担保された取組を示していくべきである。</p> <p>また、イベントによる集客は一過性のものであり、恒常的な賑わいは、中心市街地にどのような魅力的な個店がそろっているのかということが鍵となる。これは、商店街やNPO法人が主体となるもので、行政がどのように関わっていくのか考えていく必要がある。</p>

4 「構成する施策」の再評価

<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>内部評価では、両施策を優先順位1位としているが、行政としてどちらを優先していくのか考えることも必要と思われる。</p> <p>達成度は、施策の指標に問題があり、両施策とも「C」となっているが、施策の実現度を考えれば「A」で良いと考える。</p> <p>また、達成度が低いため、貢献度を「B」としているということであるが、達成度と貢献度の考え方は切り離すべきであり、貢献度はもう少し高い評価としても良いのではないかと考える。</p>

5 総括

(1) プロジェクト全体への取組に対する評価・意見（達成状況、良かった点・悪かった点など）

この政策は「賑わいと交流・連携のある都市づくり」と「アクセスしやすい都市づくり」の2つの側面から「快適で質の高いまち」を実現しようとするものであるが、静岡は、中心市街地がコンパクトにまとまり、その中に自然がある住みやすい場所である。開発していくことが全てではないが、この住みやすさを施策の中で活用していくべきと考える。

賑わいや交流を作り出していくためには、自然や文化、歴史を連携させ、ネットワークにしていくことが重要であり、一過性のイベントだけではなく、このようなソフト事業を継続的に進めていく必要がある。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき施策など）

若い人の力は大きいため、若者を惹きつける教育やカルチャーの充実を図ることは交流人口の増加につながる。そして交流により、まちが変われば、商店街も変わっていくことから、大学の誘致や女性をターゲットにしたまちづくりを考えてはどうか。

また、日本はこの20年間、「便利、簡単、気持ちいい」を追い求めてきたが、これらは消費者的視点である。その前に、生活の原点として働く場所の確保や医療などのベーシックな部分の施策が必要なのではないか。職の確保や医療の充実は、定住人口の増加につながり、長い目で見れば住みやすさや快適さを向上させることになる。

なお、3次総の策定にあたっては、市民一人一人の価値観が違う中で、これから市が求めていく「質」とは何かを、改めて議論し、具体的化していく必要がある。そのうえで、継続可能な施策や事業を民間（市民や企業）と共働を進めていくべきである。

Ⅲ-1 活力と交流のネットワークシティプロジェクト

施策名 3-1-1 コンパクトで持続可能な賑わいと交流・連携のある都市づくり

代表指標	中心市街地の休日1日あたりの歩行者通行量 【静岡】(H19) 28,232人→(H26) 30,850人 【清水】(H18) 8,394人→(H26) 8,400人
------	---

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>中心市街地の休日1日あたりの歩行者通行量は、賑わいをとらえる指標としては、有効であると考えられるが、中心市街地という一部のエリアのみを表しており、交流と連携やエリア全体を表す指標としては、不十分であったと考えられる。</p> <p>該当エリアを網羅した歩行者通行量を指標とすべきと思われる。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当ではない</p> <p>[理由・意見]</p> <p>歩行者通行量をとらえて、賑わいの指標としているが、ここでの「賑わい」は、伝統的な「賑わい」であって、インターネットの活用が活発になり、商取引が多様化している今の「賑わい」は別にあるのではないかと。</p> <p>市民の消費行動は変化しているため、中心市街地の歩行者通行量だけでなく、しっかりとしたリサーチを行ったうえで、指標を設定すべきと考える。</p>

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①中心市街地の歩行者通行量が増加していない。</p> <p>②市の財政負担の増加が想定される。</p> <p>【原因】</p> <p>①歩行者通行量の増加には、ハード整備だけでなく、ソフト事業が必要。</p> <p>②事業要望の増加、同一時期への集中。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>現在の生活スタイルや時代の流れを把握したうえで課題を把握することが必要であり、課題としては高齢者などの弱者対策や中心市街地に集まる人たちのモラルの問題などもとらえるべきと考える。</p> <p>また、歩行者通行量が増えない原因として、ハード整備とソフト事業の必要性を取り上げているが、歩行者の年齢層やどこから来ているのかなど、更に詳細な調査、分析を行ったうえで、課題の原因を探る必要がある。</p>

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①新しい公共の観点から市民、地元との協力・連携を進め、市民が主体となる活動が行われるように、市民協働の考え方をより幅広く浸透させていく。</p> <p>②指定管理者や民間団体等と協働して市民周知の継続的な実施、賑わい創出を実現するための事業展開等により利用者の増加をはかる。</p> <p>③新たに制定した方針・基準の運用により、事業の量と質の適正化と事業年度の分散化を図る。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>課題解決の方向としては妥当であるが、市民や指定管理者との協働を進めていくうえでは、具体的に何をしてもらおうのか、それができる団体があるのかどうかを考える必要がある。</p> <p>市民協働であれば、サービスが低下しても良いということではないと考える。</p>

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果：妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>特になし。</p>

5 総括

(1) 施策全体への取組に対する評価・意見（達成状況、良かった点・悪かった点など）

主に中心市街地の活性化を目的とした施策であり、主要事業はほぼ順調に進行していることから、ハード整備としての施策の達成状況は高いと考える。

ただ、代表指標を「中心市街地の歩行者通行量」としているため、「賑わい」イコール「歩行者通行量の増加」という考え方に捉われ、課題やその解決方法が考えられているが、市民の消費行動は変化しており、消費の中心となる若い人たちも減少している。現状を十分に分析したうえで、今、求められている「賑わい」とは何か、また「賑わい」づくりのために、これから具体的に何をしていくべきかを、市は中心市街地の当事者である地域の団体や指定管理者等とじっくり話し合い施策を進めていく必要がある。この際、行政は、主導的に動くのではなく、サポートする立場で事業に関わることが望ましい。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

今後に向けては、中心市街地への移動手段を検討していく必要があると考える。

静岡市はコンパクトにできているため、駐車場を確保し、ソフト事業をそろえていけば、中心市街地に人の動きを集めることは可能であるが、車中心ではなく、公共交通機関や自転車など、様々な手段でまちを移動できる交通網を整備することが、これからの中心市街地の活性化には必要である。

なお、静岡市には徳川家康以外にも、浅間神社、安倍川、駿府城公園など全国から人を呼ぶ力のある資産が多くあることから、これらを連動させ、中心市街地の活性化に活用するよう取り組んでほしい。

Ⅲ－１ 活力と交流のネットワークシティプロジェクト

施策名 3－1－2 公共交通や自転車を活用したアクセスしやすい都市づくり

代表指標	住みやすく便利な暮らしができていると思う市民の割合 (H21) 71% → (H26) 85%
代表指標	道路利用者満足度 (H20) 28% → (H26) 50%
代表指標	渋滞によって失う時間 (H20) 4,600分 → (H26) 3,680分

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>住みやすく便利な暮らしができていると思う市民の割合は、施策全体を表す指標として適していると思うが、公共交通や自転車を活用したアクセスしやすいという視点より広い捉え方がされてしまうと考えられる。アンケートの設問を交通に限定する必要がある。</p> <p>道路利用者満足度、渋滞によって失う時間を設定することは、アクセスのしやすさを表す指標として有効なものである。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>「住みやすく便利な暮らしができていると思う市民の割合」については、内部評価の結果のとおり、この施策の指標としては範囲が広すぎるため、公共交通網や自転車道の整備による住みやすさなどに限定しなければ、施策の達成を確認することは難しい。</p> <p>また、施策の目的は自動車よりも公共交通機関や自転車を活用しているというものであるが、「道路利用者満足度」と「渋滞によって失う時間」は、自動車利用者の利便性に関する指標とも受け取れるため、誤解を与える恐れがある。</p> <p>なお、指標としては、安全面や子ども、高齢者、障害者等の交通弱者の利便性、更には自転車の通行上のマナーや放置自転車などの意識の向上なども必要ではないか。</p>

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①幹線道路の整備に対する一定の評価は得ているが、道路全般における満足度は向上していない。</p> <p>②市民の渋滞対策に対するニーズは依然として高い。</p> <p>③公共交通の利用者が減少している。</p> <p>【原因】</p> <p>①アクセスの利便性向上に関する市民の期待やニーズが非常に高い。</p> <p>②道路整備についての情報発信が不足している。</p> <p>③車の利用率が依然として高く、公共交通の利用が伸びない。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>内部評価では、課題として道路利用者満足度が向上しないことを取り上げているが、満足度に含まれる利便性と安全性は別のものであるため、行政としてはそれぞれについて課題認識を持ち、詳細な分析を行い、原因を洗い出すべきと考える。</p> <p>また、アクセスの利便性に関する期待が大きいということであるが、道路をつくるだけでなく、自転車や歩行者のモラルを高めるなどのソフトの部分が必要であり、また、子ども、高齢者、障害者等の弱者保護についても課題認識を持つ必要があるのではないか。</p>

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①交通管理者、交通事業者、地元等と引き続き一体となって公共交通網や拠点整備、道路網の整備に取り組み円滑な交通の確保を進める。</p> <p>②これまでの取り組みをまとめホームページ等により整備効果についてPRを行う。</p>	<p>評価結果：どちらかといえば妥当ではない</p> <p>[理由・意見]</p> <p>「施策の課題と原因」と同様、利便性だけでなく、安全性に対する取組が大切であり、本質を見失わずに進めてほしい。</p> <p>自転車や歩行者は交通弱者であるが、「公共交通や自転車を活用したアクセスしやすい都市づくり」を行っていくためには、そこにモラルを向上させる取組や市としてのルールづくりが必要ではないかと考える。</p> <p>また、ホームページによるPRを上げているが、情報提供は適時性が重要となるため、留意する必要がある。</p>

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果：どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>LR Tは、まだ検討の段階であるが、優先順位が1位ということは、今後、静岡市はこれを前面に出していくと受け取れる。</p> <p>また、自転車道ネットワークは、まだ連結していない状態であるが、施策の実現に貢献しているという判断に違和感がある。</p>

5 総括

(1) 施策全体への取組に対する評価・意見（達成状況、良かった点・悪かった点など）

公共交通や自転車を活用してアクセスしやすい都市をつくっていくことを目指した施策であるが、代表指標は、この目指す姿が実現された状態を表しているとはいえない。そのため、達成度は「C」となっているが、指標に捉われずハード整備の面から考えると達成度は「B」でも良いと思われる。

道路整備については、これまで自動車のための道路の整備を進めてきたが、これからは自転車や歩行者の安全性と利便性を高める整備が必要と考える。特に、子ども、高齢者、障害者等の交通弱者に優しい「みちづくり」に力を入れるべきである。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

3次総に向けては、施策の一方の軸である自転車の活用に力を入れていく必要があると考える。自転車道ネットワークの整備を推進し、これを完成させるとともに、積極的に駐輪場の整備を進め、静岡駅前などの歩道の混雑を解消していくべきである。

また、これまでハードの整備を主体としてきたが、施策目的の実現のためには、ソフト事業にも力を入れていくべきであり、警察と協力して、自転車や歩行者のルールづくりやマナー向上に取り組んでほしい。

政策・施策評価〔試行〕内部評価結果

Ⅲ-1 活力と交流のネットワークシティブロジェクト

政策レベル					施策レベル					主要事業										
政策	代表指標	達成状況	評価		所管	施策	代表指標	達成状況	評価		所管	事業名	実績の評価				将来の評価		事業費 (百万円)	所管
			達成度	C					達成度	C			達成度	貢献度	費用対効果	総合評価	必要度	優先順位		
政策⑦ (コード 3-1) 「快適で質の高いまちの実現」 都心、副都心等の特色に応じた整備と、それらの交流・連携やアクセスの利便性向上を図り、高次都市機能がコンパクトに集積した質の高い都市空間の形成を目指します。	中心市街地はにぎわいや魅力が増したと感じる市民の割合 【21年度】 静岡34% 清水4% ↓ 【26年度】 静岡60% 清水20%	【25年度】 静岡46.5% 清水7.0% [達成率] 静岡48.1% 清水18.8% (平均) 33.5%	達成度 C	◎都市局 保健福祉局 生活文化局 経済局 建設局	施策① (コード 3-1-1) コンパクトで持続可能な賑わいと交流・連携のある都市づくり	代表指標① 中心市街地の休日1日あたりの歩行者通行量 【19年度】 静岡28,232人 清水8,394人 ↓ 【26年度】 静岡30,850人 清水8,400人	【25年度】 静岡24,784人 清水7,395人 [達成率] 静岡0%以下 清水0%以下 (平均) 0%以下	実績の評価 達成度 C 貢献度 B 費用対効果 B 総合評価 B	◎都市局 保健福祉局 生活文化局 経済局	主要事業①(コード 3-1-1-1) 急病センターの整備	A	B	B	B	—	—	370	保健衛生総務課		
											主要事業②(コード 3-1-1-2) 清水駅東地区文化施設の整備	A	B	B	B	—	—	8,359	文化振興課	
											主要事業③(コード 3-1-1-3) 公園・緑地の整備(駿府城公園)	A	B	B	B	S	2	1,143	緑地政策課 公園整備課	
											主要事業④(コード 3-1-1-3) 公園・緑地の整備(日本平公園)	C	B	B	B	S	1	2,187	緑地政策課 公園整備課	
											主要事業⑤(コード 3-1-1-4) こどもクリエイティブタウンの整備	B	B	B	B	—	—	1,334	産業政策課	
											主要事業⑥(コード 3-1-1-5) 市街地再開発の促進	A	A	B	A	S	4	10,315	市街地整備課	
											主要事業⑦(コード 3-1-1-6) 呉服町通りモール化事業	B	B	B	B	S	3	49	都市計画課 市街地整備課	
											主要事業⑧(コード 3-1-1-7) 清水駅西土地区画整理の推進	A	B	B	B	A	6	2,006	清水駅周辺整備課	
											主要事業⑨(コード 3-1-1-8) 東静岡地区新都市拠点整備	B	B	B	B	A	5	10,835	大谷・東静岡周辺整備課	
											代表指標② 道路利用者満足度 【20年度】 28% ↓ 【26年度】 50%	【26年2月】 79.0% [達成率] 57.1%	代表指標③ 渋滞によって失う時間 【20年度】 4,600分 ↓ 【26年度】 3,680分	【25年度】 28.0% [達成率] 0%	◎都市局 建設局	施策② (コード 3-1-2) 公共交通や自転車を活用したアクセスしやすい都市づくり	代表指標① 住みやすく便利な暮らしができてきていると思う市民の割合 【21年度】 71% ↓ 【26年度】 85%	実績の評価 達成度 C 貢献度 B 費用対効果 B 総合評価 B	◎都市局 建設局	主要事業①(コード 3-1-2-1) 道路網の整備
主要事業②(コード 3-1-2-2) オムニバスタウンの推進	B	A	B	B	A	7	92	交通政策課												
主要事業③(コード 3-1-2-3) 市街地バス路線維持対策	B	A	B	B	S	4	1,096	交通政策課												
主要事業④(コード 3-1-2-4) 静岡鉄道大坪新駅設置検討	B	B	B	B	A	8	33	交通政策課												
主要事業⑤(コード 3-1-2-5) 鉄道駅バリアフリー化の促進(用宗駅等)	B	A	B	B	A	6	119	交通政策課												
主要事業⑥(コード 3-1-2-6) JR駅舎及び周辺整備(安倍川駅)	B	B	B	B	A	5	4,206	市街地整備課												
主要事業⑦(コード 3-1-2-6) JR駅舎及び周辺整備(草薙駅)	A	B	B	B	A	5	2,934	清水駅周辺整備課												
主要事業⑧(コード 3-1-2-7) 自転車道ネットワークの整備	B	A	B	B	S	2	1,425	道路保全課												
主要事業⑨(コード 3-1-2-8) LRT導入の検討	A	B	B	B	S	1	169	交通政策課												

【評価基準】

ア 実績に対する評価
〔政策・施策レベル・主要事業〕

〔政策・施策レベル・主要事業〕		〔施策レベル・主要事業〕	
(1) 達成度		(2) 貢献度	
S	期待を上回る(達成率105%以上)	5	5
A	期待通り(達成率90%以上105%未満)	4	4
B	期待をやや下回る(達成率70%以上90%未満)	3	3
C	期待を下回る(達成率70%未満)	2	2
D	実施していない(達成率0%以下)	0	1

※合計評価点は、達成度、貢献度、費用対効果の評価点の合計

イ 将来に向けた必要性に対する評価 (完了した事業を除く。)
〔政策・施策レベル・主要事業〕

〔政策・施策レベル・主要事業〕		〔施策レベル・主要事業〕	
(1) 将来に向けた必要度		(2) 将来に向けた優先順位	
S	必要性が極めて高い	上記の「ア(4)総合評価」と左記の「イ(1)将来に向けた必要度」を勘案して、優先順位を付ける。	
A	必要性が高い		
B	必要		
C	必要性が低い		
D	極めて必要性が低い		

外部評価シート〔政策評価〕 戦略Ⅲ－3 魅力あふれる中山間地域活性化プロジェクト

政策名 3-3 山村と都市が共生・共有するまちの実現

代表指標①	中山間地域の保全に関心がある市民割合 (H21)74%→(H26)90%
-------	--------------------------------------

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
都市が中山間地から享受する恩恵を共有することは、山村との共生に直結することであるため、代表指標として妥当。	<p>ア評価結果 どちらかといえば妥当ではない</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村と都市が共生するまちを実現するための指標が「保全に関心がある市民の割合」だけでは、あまり適切ではない。 ・中山間地の活性化プロジェクトで、重要なのは中小規模の林業、農業との共生が重要である。 ・保全に関心のある市民割合を、保全・恩恵に関心がある割合とすればよかった ・中山間地の魅力を認識するという度合いについて、細かく指標を設定した方がよかったのではないか。 ・政策を1つの指標だけでなく、多面的な指標を設定した方が良かったのではないか。 ・政策の達成を判断する指標がアンケートだけであり、市民の感覚によって達成度を図ることは難しいのではないか。

2 「政策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <p>①中山間地の保全の必要性、恩恵について市民理解が十分でない。</p> <p>②中山間地の魅力が都市部住民に浸透していない。</p> <p>【原因】</p> <p>①都市と中山間地の交流不足。</p> <p>②市民へのPR不足。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と原因については、概ね妥当である。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、山村と都市が共生・共有しなければならないのか、目的をはっきりさせる必要がある。 ・交流不足の原因は、一般公共交通機関を利用したアクセスが不便なことが一因であると考える。 ・PR不足となっているが、「広報しずおか」の出来は評価されているので、利用したらどうか。 ・デマンドバスの本数を増やし、高齢者の病院・役所・福祉施設への利便性を良くすることが大事。

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>①移住促進や、交流促進などの既存事業の着実な実施。</p> <p>②新規事業の検討。</p> <p>③オクシズの魅力PR推進。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流促進については、妥当であるが、移住促進は難しいと感じることから、課題解決の方向としては妥当でない。 ・評価は妥当であるが、移住促進ができるのか疑問である(意見) ・山間地の魅力とは何かしっかり把握する必要がある。

4 「構成する施策」の再評価

<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価は妥当であるが、達成度が低い状況であることが課題である。 ・構成する施策は③課題解決の方向と同じである。 ・項目は違うが、設問はほぼ同じである。評価方法をもっと考え方が良い。 ・政策、政策いずれも達成度は低Cということは、政策に対する施策が適切でなかったとも言えるのではないか。 ・評価自体は、適切であるが達成度が低いということは、もう一度考えなければならない。 ・移住促進については、意見の分かれるところである。 ・設問項目や評価方法は再考した方が良い。 ・政策・施策を構成する主要事業が良かったのか、考えるべきである。
--

5 総括

(1) 政策に対する総括

「山村と都市が共生・共有するまちの実現」を目指し、施策として「既存住民の定住支援と集落の活性化」、「新たな住民の移住促進」の2つを掲げ取り組んでおり、山村交流拠点の整備による交流人口の増加や地域資源を活用した商品開発、新たな移住世帯数の確保等が図られたことから、政策の実現に対し、一定の成果はあったと考えられる。

しかしながら、人口減少や高齢化、若者の流出等が著しい中山間地域においては、市街地との地域間格差の顕在化が課題となっており、今後ますます進行することが予想されるため、これらの諸課題を踏まえた上で、今後は、将来的なビジョン（中山間地域の目指すべき姿）を明確に掲げることが重要である。

また、生活保護費等の社会保障関係費が年々増加するなど、厳しい財政状況が今後も続くと思込まれることから、行政だけでなく市民・企業等と協力し、市が一体となって進めるほか、中山間地域の活性化には、産業振興（農林・観光）、定住・移住促進、環境保全など、様々な側面があるため、社会経済情勢や限られた財源であることを勘案し、焦点を絞り、優先順位をつけるなど、効果的に実施することが重要である。

（内部評価に対する意見）

内部評価の結果については、全体的な視点から概ね妥当と判断できるが、「指標の的確性」については、

- ・山村と都市が共生するまちを実現するための指標が「保全に関心がある市民の割合」だけでは、あまり適切ではない。
- ・中山間地の魅力を認識するという度合いについて、細かく指標を設定した方がよかったのではないかな。
- ・政策を1つの指標だけでなく、多面的な指標を設定した方が良かったのではないかな。などの意見もあったことから、今後、検討いただきたい。

（雇用の確保）

中山間地域において、安定的な経済活動が継続されるためには、「雇用の場の創出」は重要であり、特に、若者の生業が確保され、安定的な生活環境が整うことで、定住支援や移住促進、若者の流出対策にも繋がると考えられるため、従来の移住促進支援制度の見直しも含め、「若者への有効な経済的支援策」を検討する必要がある。

（地域資源の活用）

中山間地域の特性を最大限に活用するには、恵まれた地域資源（自然環境、農作物、歴史・文化等）を広く周知し、その魅力をPRすることが重要である。特に、地元地域においては、ごく自然なモノでありながら、他の地域にとっては、非常に貴重な地域資源であるモノも数多く存在すると考えられるため、自らの地域資源を再認識し、その価値を積極的に発信することで、地域活性化に繋げていくことが重要である。

（生活環境の整備）

静岡市は中山間地域の占める割合が広大で、市民は中山間地域に多くの恩恵をこうむっており、中山間地域の活性化を主たる事業として今後も実施していくことが急務であるとする。

また、時代の趨勢を考慮すれば、社会全体の生活環境は大きく変化しており、中山間地域における「高齢化の進行」や「若者の流出」に対処し、「交流人口の増加」、「定住・移住の促進」を図るには、情報通信網や公共交通機関等の整備も重要な要素となる。

そこで、市民ニーズと費用対効果等を十分考慮した上で、民間企業と一体となって検討・推進していくことが重要であるとする。

今後、長期的な視点に立って生活環境整備に努めることは、中山間地域の活性化に繋がり、ひいては静岡市の活性化に繋がるものとする。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき施策など）

（全体）

- ・なぜ、山村と都市が共生・共有しなければならないのか、目的をはっきりさせる必要がある。

（中山間地域のPR）

- ・中山間地域の魅力を市民に周知するよう、広報・静岡気分毎回、特集するなど、効果的にPRして欲しい。
- ・PR不足となっているが、「広報しずおか」の出来は評価されているので、利用したらどうか。

（生活環境の整備）

- ・中山間地でも住みやすい環境（交通・情報通信整備・森林の保全・高齢者対策）につながる事業が必要ではないか。
- ・交流不足の原因は、一般公共交通機関を利用したアクセスが不便なことが一因であるとする。
- ・デマンドバスの本数を増やし、高齢者の病院・役所・福祉施設への利便性を良くすることが大事。

（地元との協力体制）

- ・地元自治会との協議により、集客力のある施設、店舗などを考える必要がある。例えば、そば・山菜料理・郷土菓子・よもぎ饅頭などを活用し、線につながるような地域づくりを考える必要がある。
- ・街中の学校に働きかけ、交流を深めるなど、フィールドワークなどをもっと採り入れたらどうか。

（市の推進体制）

- ・中山間地振興は、部際、業際問題なので、関係部局間で情報交換を密にするとともに、部分最適ではなく、全体最適を目指すことが重要である。

※政策の「課題と原因」の再評価や、「課題・解決の方向」等において、述べられた意見についても再掲している。

外部評価シート〔施策評価〕 戦略Ⅲ－3 魅力あふれる中山間地域活性化プロジェクト

施策名 3-3-1 既存住民の定住支援と集落の活性化

代表指標①	住みやすく便利な暮らしができていると思う市民の割合（中山間地域） (H21) 38% → (H26) 55%
-------	---

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
「便利な暮らし」でなく、代表指標は「住みやすさ」に特化すべき。	<p>評価結果 どちらかといえば妥当ではない</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>（理由）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の結果が、アンケートだけで判断されているのかは疑問があり、アンケート以外に別の指標を設定することが必要。 ・現在の指標で施策の達成状況を把握することは難しい。 ・住みやすさや便利という表現は抽象的で、なにをもって「住みやすい」「便利」と感じるかは、個々の判断によるものなので指標としてはどうか。 ・住みやすさの客観的判断は難しく、むしろ、交通、通信、買い物、教育、人の交流などが便利であるべきとするほうが良い。 ・現在の指標では、客観的な判断がむずかしいため、主要事業を示して定量的に判断したらどうか。 ・定住支援における指標としてはいいが、集落の活性化についての適正には欠ける。 <p>（意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の目標を達成するための主要事業が挙げられているが、施策の目標達成と構成されている主要事業が結びついていないため、改善が必要である。

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】 ①既存住民、特に若年層の流出が続いている。 ②集落活性化が十分でない。</p> <p>【原因】 ①②既存住民、特に若年層にとって生業とする仕事場が少ない。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村交流拠点が伸びていないため、課題は捉えている。 ・PR事業を多数実施しているが、中山間地域の活性化に結びついていないことから、課題・原因は捉えている。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住策の第一は「仕事があること・できること」である。 ・若年層の定住促進には、仕事場を確保する必要がある。 ・定住させるためには、結婚後を含めた生活の利便性が重要である。 ・「定住促進」や「集落活性化」には、中山間地の流通や一般交通網の整備が不十分と考える。 ・原因は分かっているが、人口流出対策と集落の活性化をどう進めていくかが重要である。 ・将来への不安があるなど、なぜ若年層の流出が続いているのかを考えなければならない。

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】 ①住みやすさとともに、働く場について検討していく必要がある。 ②当該地域住民のニーズを確実に把握したうえで、既存事業の見直し等を実施していく必要がある。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>[理由・意見]</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決については、概ね妥当と考える。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当地及び類似地域におけるケーススタディを行い、アイデアを練る必要がある。 ・取組内容は中山間地振興に限ったものにする必要があり、市街地で行うようなことをしても意味がない。 ・現在、市の施設は役に立っているが、点ではなく面で整備することが必要である。 ・中山間地域の活性化には、地場産業のプロモーションが必要である。 ・行政がいかにか前に出て進めていくかが重要である。 ・生活環境面から、光通信などの情報通信網の整備が必要である。 ・郷の駅（情報・交通・配送・観光）を整備することで、課題解決をしたらどうか。 ・課題解決の方向は分かっているが、具体的な対策・内容が必要である。

4 「構成する主要事業」の再評価

評価結果 どちらかといえば妥当

〔理由・意見〕

(理由)

- ・個々の事業については、いろいろあるがトータルで見れば妥当である。
- ・全ての項目について、Bというレベルが同じなのか疑問である。(各事業バラバラで評価しているため)
- ・山を守ることや、林業は重要だと思うが必要度がBというのはいかがか。
- ・将来の必要性について、山間地バス路線維持（自主運行バス）や民有林の造成促進の優先順位を上げたかどうか。
- ・森林が市民にもたらす恩恵は非常に大きく、治山、治水は重要である。
- ・現状における評価はいいが、将来に対する評価については、疑問の事業もある。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

（全体）

- ・様々な諸課題（人口減少、高齢化の進行、若者の流出、厳しい財政状況等）が存在する中、当施策を推進することは、非常に難しいことから、中山間地域の将来的なビジョンを明確にした上で、その達成に向けた取組みを実施するべきである。
- ・中山間地域の課題は、非常に多岐に渡り、大きな問題であるため行政だけでなく、市全体（行政・市民・企業）で解決策を考える必要がある。
- ・新東名の整備も進んでいるが、市の中山間地域にもっと回遊性があれば、人が集まるのでいいと思う。

（生活環境の整備）

- ・新たな住民の移住に加え、若者の流出対策を推進するには、次世代を担う若者が定住できる生活環境（雇用の場の創出、情報通信網・公共交通機関の確保）を整備することが重要である。
- ・交通アクセスはよくなっているが、利用者のニーズを把握し、そのリアクションに対し、どう対応するかが重要である。

（新たな移住促進）

- ・市外、県外から新たに移住させることは非常に困難と考えられるため、現状の経済的支援策を再考した上で、市内からの移住促進策を優先的に検討する必要がある。

（官民連携）

- ・中山間地域には、公共施設以外に魅力ある民間企業も数多く存在することから、官民連携という観点で、民間企業を含めPRしていくことが重要である。

（地場産業の振興）

- ・地域の特性を活かしたクオリティ（安全・安心でブランド力のある食材等）の高い地場製品の創出を検討する必要がある。

（効果的なPR・事業の促進）

- ・中山間地のプロモーション（地場産業・農作物の販売促進、観光客向け案内版事業の充実等）を重視した事業を検討する必要がある。
- ・一過性の事業ではなく、新たな住民の移住促進と若者の流出対策につなげるための取組みが必要である。

※施策の「課題と原因」の再評価や、「課題・解決の方向」等において、述べられた意見についても再掲している。

5 総括

(1) 施策における総括

「既存住民の定住支援と集落の活性化」を目指し、「森林保護」、「鳥獣被害対策」、「安心・安全な子育て支援策」、「地域資源を活用した地域活性化事業」など、様々な事業を展開しており、施策との関係性や達成度、実績から鑑みれば、一定の成果はあったと考えられる。

しかしながら、施策を構成する主要事業が各々、独立しており、一連性に欠けることから、最終的な施策の到達点（既存住民数の確保・雇用の確保・交流人口の増加・経済活動の活性化等）が分かりにくく、達成度を図ることが非常に困難である。

このことから、今後は、施策の将来的なビジョンを掲げるとともに、その施策を実現するための主要事業を整理した上で、中山間地域の活性化に向けた取組みを実施する必要がある。

（内部評価に対する意見）

内部評価の結果については、全体的な視点から概ね妥当と判断できるが、「指標の的確性」については、以下の意見を基に、どちらかというとなりて妥当でないと判断した。

- ・事業の結果が、アンケートだけで判断されていいのかが疑問があり、アンケート以外に別の指標を設定することが必要である。

- ・住みやすさや便利という表現は抽象的で、なにをもって「住みやすい」「便利」と感じるかは、個々の判断によるものなので指標としてはどうか。

- ・現在の指標では、客観的な判断がむずかしいため、主要事業を示して定量的に判断したらどうか。

（雇用の確保・人口減少対策）

市内部においても課題として捉えているように、若者の流出による人口減少は地域活性化の低下を招いており、その原因としては、生業とする仕事場が少ないことが挙げられるが、施策を構成する主要事業には課題解決に向けた取組みが含まれていない。

今後は当施策を推進するための取組みとして、市内外の教育機関（高等学校・大学等）とタイアップし、農業・林業の後継者育成プロジェクトを検討するなど、若者の雇用の場を創出するとともに、人口減少対策にも取り組んでいただきたい。

（地場産業の活性化）

安定的な経済活動を支えるためには「地域の特性を活かした地場産業の振興」は非常に重要であり、いかにして地場産品や観光資源等を周知し、販売や集客に繋げていくかを考えなければならない。

このためには、当地や類似地域におけるケーススタディを行い、アイデアを十分練るとともに、行政からの一方的な情報発信ではなく、地元や企業と協力し、効果的で効率的なプロモーション活動を展開するなど認知度を高めることが必要である。

（森林・環境保護）

中山間地域の特性である森林は、資源として木材や林産物を生産する場であるとともに、土砂災害等を防止する国土保全機能、渇水や洪水を緩和しながら、良質な水を育む水源涵養機能など、市民が安全で快適な生活を送るために欠かせない機能を有していることから、今後も森林のもつ「公益的機能」を絶やすことがないよう、森林・環境保護に積極的に努めることが必要である。

(2) 3次総に向けた意見・提案（今後取り組むべき事業など）

（雇用の確保）

・中山間地域の特性である地域資源（森林・農地等）を最大限に活用するため、市内外の農業・林業高校とタイアップし、農業・林業の後継者育成プロジェクトを検討するなど、若者の雇用の場を創出できるよう取り組んでいただきたい。

（生活環境の整備）

・住みやすさ、便利さを定義することは難しいが、中山間地域の高齢化の進行や若者の流出を考慮すれば、情報通信網及び公共交通機関の確保は重要であると考えられるため、民間企業とより一層連携を図り、環境整備に努めていただきたい。

・郷の駅（情報・交通・配送・観光）を整備することで、課題解決をしたらどうか。

（地場産業の振興）

・中山間地域において、安定的な経済活動を支えるためには、地場産業の振興は重要である。大規模なプロモーション活動を展開するなど、市内外に広く周知していただきたい。

（施策の推進体制）

・厳しい財政状況を考慮すれば、行政だけで進めることは困難であると考えられるため、プロジェクトの認知度を向上させ、民間企業から協力を得られるよう、働きかけるなど、市全体で協力体制を構築する必要がある。

（経済支援策の検討）

・若者の流出対策や定住支援の促進には、一定の経済支援策を考えていく必要がある。

（森林・環境保護）

・森林が市民にもたらす恩恵は非常に大きく、災害防止や良質な水を提供するために、治山、治水は重要であることから、継続的に取り組む必要がある。

（その他）

- ・当地及び類似地域におけるケーススタディを行い、アイデアを練る必要がある。
- ・現在、市の施設は役に立っているが、点ではなく面で整備することが必要である。

※施策の「課題と原因」の再評価や、「課題・解決の方向」等において、述べられた意見についても再掲している。

施策名 3-3-2 新たな住民の移住促進

代表指標①	南アルプスの自然・景観を誇れるものと思う市民の割合 (H21) 65% → (H26) 75%
代表指標②	中山間地域への移住世帯数 (H21) 6 世帯 → (H26) 30 世帯
代表指標③	都市山村交流拠点施設の年間利用者数 (H21) 165, 432 人 → (H26) 200, 000 人

1 「指標の適確性」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>「代表指標①については、施策の「住民の移住促進」との関連は薄いと考える。「中山間地への移住や交流に関心のある市民の割合」などが妥当と思われる。</p> <p>施策「住民の移住促進」とは、「定住人口・交流人口の増加」であるため、代表指標②、③については妥当と考える。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな移住促進に対し、「南アルプスの自然・景観を誇れると思う市民の割合」は、指標として適していないが、その他は妥当と考える。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標が具体的でないため、評価しにくい。

2 「施策の課題と原因」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流人口の指標である都市山村交流拠点施設の利用者はH21より減少している。施設やオクシズそのもののPRなど、交流人口増加策を検討すべき。 ○定住人口増加に向けてさらなる推進を図るべき。 <p>【原因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PR不足、オクシズ全体での魅力のある事業の展開が少ない。 	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村交流拠点の利用者数が伸びていないこと、定住人口増加に結びついていないことなど課題は捉えている。 ・事業は多数実施しているが、PRに結びついていないことから課題・原因は捉えている。 ・移住促進も必要だが、流出人口（世帯数）を示すほか、その対策についても分析が必要である。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題、原因は捉えているが、内部評価の結果がいいのか疑問がある。

3 「課題解決の方向」の再評価

内部評価の結果	外部評価
<p>【課題を解決するための取組】</p> <p>○中山間地については、新東名の開通によりアクセスも大幅に良くなっているほか、トイレ整備等も進んでいる。首都圏などに対しても効果的なPRを実施するほか、自発的に交流するオクシズファン増加に向けて交流事業を展開していく必要がある。</p>	<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新東名の整備も進んでいるが、市の中山間地域にもっと回遊性があれば、人が集まるのでいいと思う。 ・市が所有する「真富士の里」のトイレはいいが、市の担当以外でも足久保（民間企業所有）のトイレなどの整備支援などは不十分と考える。 ・交通アクセスはよくなっているが、利用者のニーズを把握し、そのリアクションに対し、どう対応するかが重要である。 ・内部評価自体は妥当であるか、課題解決決め手がない。

4 「構成する主要事業」の再評価

<p>評価結果 どちらかといえば妥当</p> <p>〔理由・意見〕</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の事業については、細かい指摘はあるが、全体的に見れば妥当と考える。 <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クリエイターズビレッジモデル事業」は、芸術家を移住させることが目的であり、体験事業への参加者はいるがどのようなことを望んできたのかが重要である。 ・中山間地移住促進事業を優先順位2位にしているが、移住に適している（いい物件）は既に少ない状況である。3次総に向けてこの順位でいいのか疑問である。

5 総括

(1) 施策の総括

「新たな住民の移住促進」を目指し、「都市山村交流拠点の整備」、「中山間地域への移住促進事業（空き家バンクの活用）」等を実施し、「交流人口の増加」や「中山間地域への移住世帯数の増加」などに繋がっていることから、一定の成果はあったと考えられる。

しかしながら、厳しい財政状況に加え、中山間地域に限らず、人口減少や高齢化、若者の流出が進行する中で、当施策を推進することは、非常に難しいと考えられるため、今後の中山間地域のあり方について、明確なビジョンを持ち、新たな住民の移住促進に必要な事業を優先順位付けした上で、所管部署のみだけでなく、市の関係部署が一体となり進める必要がある。

また、中山間地域の課題である「生活環境（雇用の場・情報通信網・公共交通機関・移住に係る物件等）」を整備し、生活の利便性を向上させるとともに、安心して子育てができる環境を整えることが重要である。

（内部評価に対する意見）

内部評価の結果については、全ての項目について、若干の修正意見はあるものの、全体的な視点から概ね妥当と判断した。

特に、「指標の的確性」については、市内部においても認識しているように、新たな移住促進に対し、「南アルプスの自然・景観を誇れると思う市民の割合」は、指標として適していないと考えられるため、今後、検討いただきたい。

（経済支援策の検討）

中山間地域に新たな住民を移住・定住させるには、若者が生業を持ち、さらに結婚や子育てができる環境を整える必要があるが、経済的な事情や同世代の人口が非常に少ないことも、中山間地域への移住が進まない一つの要因として考えられる。

このため、一定の条件は必要だが、移住・定住に係る若者への経済的支援を検討し、若者世代を積極的に採り入れるよう取組むとともに、市街地との地域間格差を解消するため、市内からの移住を優先的に進めることも検討いただきたい。

（山村交流拠点の活用）

都市山村交流拠点や中山間地域のトイレ等を整備することで、交流人口の増加と環境整備に努めているが、中山間地域には、公共施設以外に魅力ある民間企業や施設が多く存在している。官民連携という観点で、民間企業も含めて中山間地域のプロモーションを実施するなど、より一層、効果的な事業とするよう努める必要がある。

また、市内部においても交流人口が減少している原因として、オクシズ全体の魅力ある事業展開が少ないことを挙げているが、これらの課題解決のための具体策が乏しいことから、住民ニーズを的確に把握した上で、施策の方向性を定め、集客力のある具体的な事業を実施していただきたい。

政策・施策評価〔試行〕内部評価結果

戦略Ⅲ－3 魅力あふれる中山間地域活性化プロジェクト

政策レベル					施策レベル					主要事業																					
政策	代表指標	達成状況	評価		所管	施策	代表指標	達成状況	評価		所管	事業名	実績の評価				将来の評価		事業費 (百万円)	所管											
			達成度	C					達成度	C			達成度	貢献度	費用対効果	総合評価	必要度	優先順位													
政策⑨ (コード 3-3) 「山村と都市が共生・共有するまちの実現」 都市部と農山村部が共生する新しいタイプの指定都市として、おいしい水や豊かな緑を守り育み、都市活動を支えている中山間地域の魅力を活かした活性化を目指します。	中山間地域の保全に関心がある市民割合 【21年度】74% ↓ 【26年度】90%	【25年度】75.4% [達成率]8.8%	達成度	C	◎経済局 総務局 環境局 都市局 教育委員会 事務局	施策① (コード 3-3-1) 既存住民の定住支援と集落の活性化	代表指標① 住みやすく便利な暮らしができていると思う市民の割合(中山間地域) 【21年度】38% ↓ 【26年度】55%	【25年度】42.0% [達成率]23.5%	実績の評価	達成度	C	◎経済局 総務局 環境局 都市局 教育委員会 事務局	主要事業①(コード 3-3-1-1) 集落支援員の配置	A	B	B	B	A	3	147	中山間地振興課										
										貢献度	B		主要事業②(コード 3-3-1-2) おらんとこの「これ一番」事業	B	B	B	B	B	B	5	110	中山間地振興課									
										費用対効果	B		主要事業③(コード 3-3-1-3) 中山間地域の孤立予想集落に対する通信手段の確保	S	B	B	A	—	—	28	防災対策課										
										総合評価	B		主要事業④(コード 3-3-1-4) 複式学級への非常勤講師の配置	A	B	B	B	A	1	205	教職員課										
										将来の必要性の評価	必要度		S	主要事業⑤(コード 3-3-1-5) 放課後子ども教室の実施	B	B	B	B	A	2	94	教育総務課									
											優先順位		1	主要事業⑥(コード 3-3-1-6) 二酸化炭素の地産地消モデルのマネジメント	A	B	B	B	B	11	10	環境総務課									
										事業費	3,228		百万円										主要事業⑦(コード 3-3-1-7) いきいき森林づくり推進	A	B	B	B	B	8	567	中山間地振興課
																							主要事業⑧(コード 3-3-1-8) 民有林の造成促進	B	B	B	B	B	9	181	中山間地振興課
																							主要事業⑨(コード 3-3-1-9) 茶園地の再編整備	C	B	B	B	B	6	42	農業政策課
																							主要事業⑩(コード 3-3-1-10) 地域材の活用促進	A	B	B	B	B	7	368	中山間地振興課
																							主要事業⑪(コード 3-3-1-11) 野生鳥獣被害対策の推進	A	B	B	B	B	4	440	中山間地振興課
																							主要事業⑫(コード 3-3-1-12) 山間地バス路線維持(自主運行バス事業)	B	B	C	B	B	10	440	交通政策課
事業費	2,631	百万円																													
施策② (コード 3-3-2) 新たな住民の移住促進	代表指標① 南アルプスの自然・景観を誇れるものと思う市民の割合 【21年度】65% ↓ 【26年度】75%	【25年度】66.3% [達成率]13.0%	実績の評価	達成度	C	◎経済局	主要事業①(コード 3-3-2-1) 中山間地域プロモーションの推進	A	B	B	B	A	1	63	中山間地振興課																
				貢献度	B		主要事業②(コード 3-3-2-2) 都市・地域の交流促進	—	B	B	B	—	—	18	中山間地振興課																
				費用対効果	B		主要事業③(コード 3-3-2-3) オクシズおもてなし環境整備	A	B	B	B	—	—	196	中山間地振興課																
				総合評価	B		主要事業④(コード 3-3-2-4) クリエイターズビレッジモデル事業	S	B	B	A	B	3	35	中山間地振興課																
				将来の必要性の評価	必要度		A	主要事業⑤(コード 3-3-2-5) 中山間地域への移住促進事業	A	B	B	B	B	2	57	中山間地振興課															
					優先順位		2	主要事業⑥(コード 3-3-2-6) 都市山村交流センターの運営	A	B	B	B	B	4	228	中山間地振興課															
事業費	597	百万円																													
代表指標② 中山間地域への移住世帯数 【21年度】6世帯 ↓ 【26年度】30世帯	【25年度】31世帯 [達成率]104%	【25年度】165,061人 [達成率]0%以下	事業費	597	百万円																										
代表指標③ 都市山村交流拠点施設の年間利用者数 【21年度】165,432人 ↓ 【26年度】200,000人	【25年度】165,061人 [達成率]0%以下	【25年度】165,061人 [達成率]0%以下	事業費	597	百万円																										

【評価基準】

ア 実績に対する評価
 [政策・施策レベル・主要事業]

(1) 達成度		評価点
S	期待を上回る(達成率105%以上)	5
A	期待通り(達成率90%以上105%未満)	4
B	期待をやや下回る(達成率70%以上90%未満)	3
C	期待を下回る(達成率70%未満)	2
D	実施していない(達成率0%以下)	0

[施策レベル・主要事業]

(2) 貢献度		評価点
S	政策(施策)の実現に極めて大きく貢献している	5
A	政策(施策)の実現に大きく貢献している	4
B	政策(施策)の実現に貢献している	3
C	政策(施策)の実現にあまり貢献していない	2
D	政策(施策)の実現に貢献していない	1

[政策・施策レベル・主要事業]

(3) 費用対効果		評価点
S	費用対効果が極めて高い	5
A	費用対効果が高い	4
B	費用と効果が均衡している	3
C	費用対効果が低い	2
D	費用対効果が極めて低い	1

[施策レベル・主要事業]

(4) 総合評価		評価点
S	極めて有効(合計評価点 14~15)	
A	相当程度に有効(合計評価点 11~13)	
B	有効(合計評価点 8~10)	
C	あまり有効でない(合計評価点 5~7)	
D	有効でない(合計評価点 2~4)	

※合計評価点は、達成度、貢献度、費用対効果の評価点の合計

イ 将来に向けた必要性に対する評価 (完了した事業を除く。)
 [施策レベル・主要事業]

(1) 将来に向けた必要度	
S	必要性が極めて高い
A	必要性が高い
B	必要
C	必要性が低い
D	極めて必要性が低い
—	事業完了などにより判断できない

[施策レベル・主要事業]

(2) 将来に向けた優先順位	
上記の「ア(4)総合評価」と左記の「イ(1)将来に向けた必要度」を勘案して、優先順位を付ける。	

